

令和 7 年度
仙台市市民活動サポートセンター
年間報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター

1 はじめに 総括	P.1	7 集計一覧	
2 場の提供	P.8	資料 1	サポートセンター年間行事
2-1 貸室	P.9	資料 2	主な項目の利用状況推移
2-2 交流サロン	P.11	資料 3	情報関連業務利用状況推移
2-3 共同事務室(事務用ブース)、 ロッカー、レターケース	P.12	資料 4	市民活動共同事務室利用状況
2-4 パソコン、印刷機、コピー機	P.14	資料 5	貸室利用状況(部屋別集計)
3 情報の収集・提供	P.15	資料 6	貸室利用時間(曜日・時間別集計)
3-1 情報掲示等利用	P.15	資料 7	交流サロン種別集計
3-2 団体情報の蓄積	P.15	資料 8	団体情報ストック数 分野別集計
3-3 市民活動団体への情報提供	P.16	資料 9	図書資料分類別冊数
3-4 図書の貸出	P.17	資料 10	ホームページ アクセス件数集計表
3-5 情報発信	P.18	資料 11	「ぱれっと」発行状況
4 相談・問い合わせ対応	P.22	資料 12	相談・問合せ対応記録集計表
5 交流・連携・その他	P.32	12-1	相談サマリー
5-1 外部組織との連携	P.32	12-2	相談集計結果【主訴－相談主体】
5-2 会議・研修	P.33	12-3	相談集計結果【内容－相談者】
5-3 視察・見学対応	P.36	資料 13	視察・見学等対応
5-4 防災避難訓練	P.37	資料 14	サポートセンター業務運営体制
5-5 施設維持管理	P.38		
6 事業報告	P.39		
事業 1 情報収集提供事業	P.40		
事業 2a 市民活動相談事業	P.46		
事業 2b 協働相談事業	P.51		
事業 3a 人材育成事業	P.57		
事業 3b 協働に関する理解促進 及び機会創出事業	P.72		
事業 3c 調査研究事業	P.80		

1. はじめに 総括

地域で市民活動を支える人たちとつながる

○仙台市市民活動サポートセンター運営基本方針

仙台市市民活動サポートセンター(以下、「サポートセンター」という。)は、新たな指定管理期間(令和7年度～11年度)の運営方針として、「市民協働の前提となる「自立」した市民性を、市民一人一人が発揮しやすくなる活動を展開する」ことを掲げた。

5年後の令和11年度には、仙台市内各地の市民活動を支えるコーディネート人材の発掘と育成を進め、200人以上のネットワークの形で、各主体みんなで応援する環境をつくられていることを目標とする。また、これまでの指定管理期間において試行してきた「共創プラットフォーム」について、市民センターや地域の団体、事業者と連携し、仙台市内各地3箇所以上で、ちいさな思いから始まる市民活動が生まれ育つ仕組みが展開されていることを目標とする。

指定管理期間の初年度である今期は、運営基本方針として「地域で市民活動を支える人たちとつながる」を掲げ、アウトリーチ相談や出前講座を通して、地域で市民活動を支える人材の発掘や地域機関等との関係構築に取り掛かった。併せて、地域の中で市民活動を支えるコーディネーター人材等の発見・発掘にも努めた。

施設管理においては、予約システムの運用が開始され、オンラインでの申し込めるようになった他、オンラインでの予約によるクレジットカードでの支払いも行うことができるようになり、施設利用のサービスが向上した。

○令和7年度の成果と課題

(1)施設運営

①成果

年間利用団体数 1,498 団体

相談の利用団体数(個人も含む)は、令和6年度に引き続き、貸室・交流サロンの利用団体を上回った。(令和6年度1,438団体、令和7年度1,498団体)。サポートセンターの役割が「場の提供」に限らないことを示している(P.8「2. 場の提供 ■利用団体数」参照)。

※重複利用があるため、貸室・交流サロンの利用団体数と相談の利用団体数の計は年間利用団体数を超える。

②課題

令和7年11月1日のご利用から、清掃時間に伴う利用制限を廃止したことに伴い、多く利用につながった一方で、前後の利用時間が続くことでの鍵の返却の遅れに対する意見があった。貸出時に鍵の返却時間を徹底して伝えることとした。

(2)情報収集提供事業

①成果

ブログの年間訪問者数(ユニークユーザー)	139,087 人
ブログ投稿数	297 本
事業者の社会貢献活動事例や協働事例の紹介	36 件
サポートセンターの令和 7 年度年間実施目標	
・ブログの訪問者数(ユニークユーザー)年間 40,000 人以上	→ <達成>
・ブログ投稿数 250 本	→ <達成>
・事業者の社会貢献活動事例や協働事例の紹介 年間 5 件以上	→ <達成>

サポートセンターのブログでは、主催事業の告知や報告、市民活動団体のイベント情報、助成金情報等を掲載した。

訪問者数(ユニークユーザー)は 139,087 人(令和 6 年度 78,020 人、前年度比 178.2%)、閲覧数(ページビュー)は 485,109 回(令和 6 年度 848,741 回、前年度比 57.2%)であり、年間目標として掲げた訪問者数(ユニークユーザー)40,000 人を大きく上回るアクセスがあった(P.20「3-5. 情報発信(3)ブログの管理」参照)。

また、年間実施目標として掲げたブログ投稿数は 297 本(令和 6 年度 337 本、前年度比 88.1%)、事業者の社会貢献活動事例や協働事例の紹介件数は 36 件(令和 6 年度 39 件、前年度比 92.3%)と、それぞれ年間目標として掲げた訪問件を上回った。(P.20「3-5. 情報発信(3)ブログの管理」参照)。

②課題

スマートフォンでのホームページ閲覧という新たな利用者ニーズへの対応である。スマートフォンでの閲覧を前提としたホームページ設計の見直しを図り、利用者が必要な支援メニューにより円滑にたどり着けるようにするための抜本的なりリニューアルが必要である。

(3)市民活動相談事業

①成果

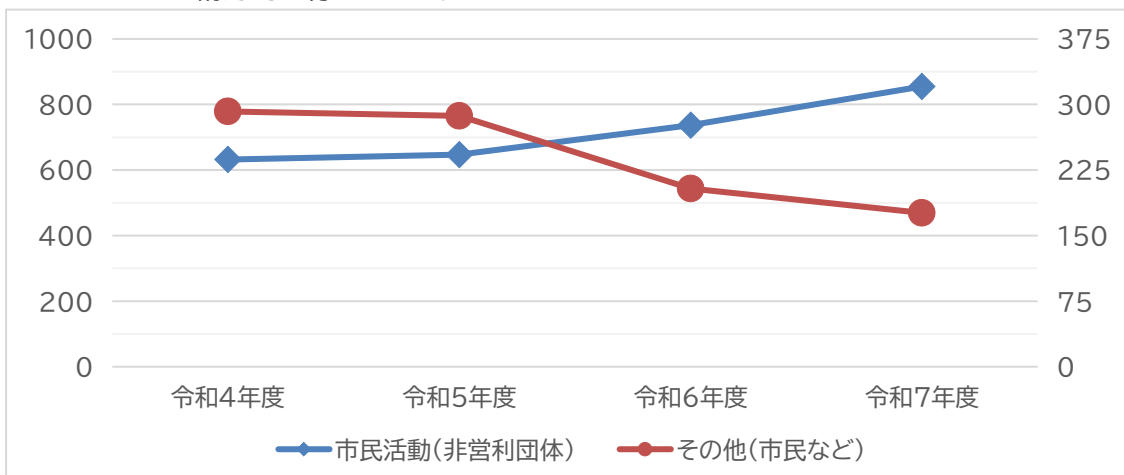
年間相談件数	1,282 件
活動相談件数	441 件
サポートセンターの令和 7 年度年間実施目標	
・年間相談件数 900 件	→ <達成>
・活動相談件数 400 件	→ <達成>

令和 7 年度の相談件数は 1,282 件(令和 6 年度 1,172 件、前年度比 109.4%)。年間目標としていた 900 件を大きく上回った。令和 7 年度の相談の内訳をみると、「活動相談」441 件(令和 6 年度 491 件、前年度比 89.8%)、施設の利用問合せ等の「窓口利用相談」405 件(令和 6 年度 370 件、前年度比 109.7%)、スタッフから団体へ声がけして話を聞いた情報共有等が含まれる「その他」436 件(令和 6 年度 311 件、前年度比 140.2%)で、活動相談が窓口利用相談を上回った(P.22～「4. 相談・問い合わせ対応」参照)。

活動相談について、相談者の属性別にみると、市民活動団体が過半数を占めた。市民活動団体からの相談では、「市民活動(非営利団体)」に関する相談が最多で 241 件だった(資料 12-2「相談集計結果【主訴一相談主体】」参照)。法人格を持たない任意団体からは、会則・規約の作成、広報戦略や口座開設、助成金申請やキャッシュフロー等の組織運営基盤についての相談、NPO 法人からは、仙台市市民協働事業提案制度の事前相談、チームビルディングについての相談等があった。

②課題

相談全体における相談者の属性において、「市民活動(非営利団体)」と「その他(市民など)」が令和 4 年度から令和 7 年度までの件数と構成比は、負の相関があることがわかった(「P.25 属性別相談件数」参照)。市民からの相談を増やす工夫としても、仙台市内各地へのアウトリーチを精力的に行っていく。



(4)協働相談事業

①成果

コーディネーター人材を発掘・育成した件数	38 件
-----------------------------	-------------

サポートセンターの令和 7 年度年間実施目標

- ・市民活動を支えるコーディネーター人材の発掘と育成を進め、令和 11(2029)年度末までに、200 人以上のネットワークをつくる。

令和 7 年度のコーディネーター人材の発掘・育成した件数は、38 件であった。この件数は、各事業における、課題把握、実践者や他機関との連携を見据えた関係構築、キーパーソンへのヒアリング、相談(面談)、専門家等の協力による支援等のために団体の活動場所等への訪問回数を計上している。その中で、「団体等との関係構築」を延べ 19 件、「情報収集／提供」を延べ 32 件、「相談(面談)」を延べ 20 件行った。また、38 件の中で、コーディネーター人材等のキーパーソン 79 名と出会うことができた。

②課題

成果として挙げた件数の一方で、専門家等の協力による支援の実施には至らなかった。訪問による発掘を増やし、支援等を希望する人材に必要な支援をするために、アウトリーチの回数を増やす必要がある。また、専門家等の協力による支援を充実させるためにも、これまで以上に多様な実践者や専門家との関係構築を図っていく。

(5)人材育成事業

①成果

若者の人材育成に資する事業の実施

2 件

サポートセンターの令和 7 年度年間実施目標

- ・若者の人材育成に資する事業を、関係機関等とも連携しながら、毎年度 2 事業以上実施

→ <達成>

若者の人材育成に資する事業の実施として、1つは、「社会教育士実習受け入れ」において、市民活動団体の活動現場を訪問取材し、執筆した記事をブログで公開するプログラムを取り入れ、情報発信を通じて市民活動に触れる機会をつくった。また、ボランティア体験にも参加してもらい、実際に市民活動に参加する機会を提供した。

もう1つとしては、「アウトリーチ型の活動力強化(出前講座)」において、高校生団体に対し、助成金の基礎と申請のポイントを学べる講座を実施した。

②課題

上記以外の事業である、仙台市による若者の人材育成に資する事業の協力において、仙台まちづくり若者ラボ 2025 の各チームのアクションや、仙台若者チャレンジアワード 2025 の応募団体、ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度)の応募団体について、活動現場を訪問してフォローアップすることが、十分にできなかった。各事業の担当者と綿密に情報交換を行い、イベントの日程等を早めに知ることができるようにする必要がある。

また、仙台市内等に立地する大学関係者との連携を増やし、新たな若者の人材育成に資する事業の検討を進める。

(6)協働に関する理解促進及び機会創出事業

①成果

協働の理解促進や機会創出に資する事業の実施件数 5 件

事業者が他の主体と意見交換できる事業の実施件数 5 件

多様な主体による学びあいの場の参加者数 延べ 140 人

サポートセンターの令和 7 年度年間実施目標

- ・協働の理解促進や機会創出に資する事業を、毎年度 2 事業以上実施 → <達成>
- ・事業者が他の主体と意見交換できる事業を毎年度実施 → <達成>
- ・多様な主体による学びあいの場を通じた連携・交流支援の年間の延べ参加者数 100 人以上 → <達成>

「協働の理解促進や機会創出に資する事業」及び「事業者が他の主体と意見交換できる事業」を包括する形で実施した「多様な主体による学びあいの場を通じた連携・交流支援」については、5 回実施することができた。延べ 140 名が参加し、課題解決に取り組む主体が出会い、つながる機会になった。「部活動の地域移行」「デフリンピック」「地域と編集」「げいのう」「若者」等、様々なトピックで、多様な主体による学びあいの場をつくり、ゲストと参加者、参加者同士がつながり、連携・協働できることについて考えるきっかけをつくった。

②課題

「協働出前講座」については、令和 7 年度は実施がなかったため、市民協働事業提案制度の応募期間に、行政との協働を不安に感じる応募団体に対して周知していく。「協働のタネのプロジェクト化支援」についても、令和 7 年度は実施がなかったが、相談事業における専門家・実践者との連携で十分対応できるため、令和 8 年度以降は相談対応の中で支援を行っていく。

「多様な主体による学びあいの場を通じた連携・交流支援」については、機会として回数が少なかったこともあり、令和 7 年度と比較し、多様な主体が様々な形で関わる機会として発展させることが求められる。

(7)調査研究事業

①成果

「仙台市協働ナビ」できるよ！仙台」の「市民協働事業」を、協働の実態を把握するために、次の 3 つの視点から仕分けを行った。「共通の目的意識を持っているか」、「事業実施における対等性があるか」、「相互理解・役割分担ができていないか」という 3 つの視点に沿った市民協働事業(本報告書では「狭義の協働事業」と称する)は、全 313 事業中、165 事業となった。この仕分けを通じて、仙台市の「仙台市協働ナビ」できるよ！仙台」には、平成 16 年度に作成された『仙台協働本』における「主な協働手法」(委託、実行委員会・協議会、共催、情報交換・情報提供、助成、後援)に則った市民協働事業(本報告書では「広義の協働事業」と称する)を掲載していることが分かった。

ヒアリング対象者は、活動分野や行政との協働に前向きか否かを問わずに、これまでにサポートセンターと関わりのある団体から 5 名の協働実践者を選定した。5 名へのヒアリングを通じたコード化^{※1}により、共通する視点として、以下の 3 点があった。

- 1:課題解決への強い意識。
- 2:主体性への言及。
- 3:恒常的に他団体や地域から課題についての情報を収集し、そこから協働へと派生している。

②課題

令和 7 年度にヒアリングを行った協働実践者は市民活動団体に限定していたため、市民活動団体以外の協働に対する考えを把握することはできなかった。そのため、より多様な視点で協働の実態を把握する上では、行政や地縁組織の実践者にもヒアリングを行う必要がある。

また、令和 7 年度は、ヒアリング調査を行いつつ、調査結果を令和 8 年度以降の調査計画に反映する検討を合わせて行っていたため、本調査研究事業の成果が果たす役割について十分な検討を行うことができなかった。テーマにある「アウトリーチ支援のあり方」の現状の検証等含め、検討を行っていく必要がある。

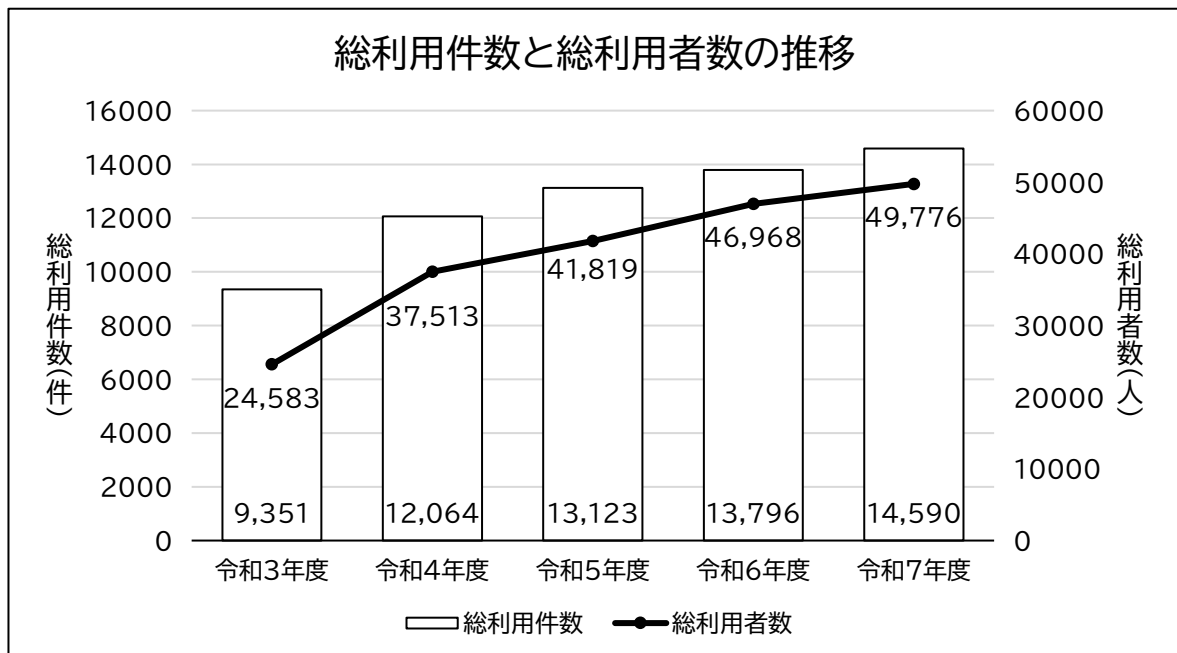
※1…コード化とは、元のデータの各部分にキーワード的な言葉(コード)をつけていく作業のことである。

2. 場の提供

令和7年度の総利用件数は14,590件(前年度比794件増)、総利用者数は49,776人(前年度比2,808人増)であった。情報利用者数(参考値)の9,124人を加えた合計は58,900人(前年度比2,918人増)となり、総利用件数及び総利用者数ともに令和6年度より増加した。(集計一覧:資料2「主な項目の利用状況推移」参照)

	総利用件数(件)	総利用者数(含情報利用者数)(人)		
		総利用者数	情報利用者数(参考値)	合計
R6年度	13,796	46,968	9,014	55,982
R7年度	14,590	49,776	9,124	58,900

情報利用者数・・・1階のマチノワひろば利用者やチラシ、ニュースレター等の情報を閲覧もしくは収集している利用者の数。利用票で集計されるイベント等の利用者やパソコン利用、図書貸し出しの利用者は含めない。



■利用団体数

「貸室」「交流サロン」の利用団体に、「相談」「ロッカー・レターケース・事務用ブース」の利用団体を加えて集計した総計(施設利用団体総数)は1,498団体となった。

	施設利用団体数				相談	ロッカー・レターケース・事務用ブース	総計
	セミナー・研修室	市民活動シアター	交流サロン	貸室利用団体数計			
R6年度	388	74	368	649	973	114	1,438
R7年度	416	71	382	685	995	114	1,498

総計(施設利用団体総数)・・・重複利用があるため、内訳の各利用団体数計と利用団体総数は一致しない。

2-1. 貸室

市民活動シアターをのぞく地上階の貸室(セミナーホール及び研修室1~5)の令和 7 年度の利用状況は、利用件数 2,742 件(前年度比 154 件増)、利用者数は 28,783 人(前年度比 978 人増)となった。

市民活動シアターは利用件数 136 件(前年度比 6 件増)、利用者数 9,280 人(前年度比 14 人増)と令和 6 年度とあまり変化はなかった。

貸室全体においては利用件数 2,878 件(前年度比 160 件増)、利用者数 38,063 人(前年度比 992 人増)と増加した。

貸室利用状況	R6 年度(開館日数 335 日)			R7 年度(開館日数 335 日)		
	利用件数	利用者数	利用率	利用件数	利用者数	利用率
セミナーホール	276	9,418	71.0%	291	9,191	74.0%
研修室 1	495	2,972	90.1%	501	3,325	89.3%
研修室 2	587	4,338	92.2%	569	4,619	92.5%
研修室 3	350	2,783	71.3%	351	2,669	69.3%
研修室 4	492	2,574	87.2%	587	2,815	93.1%
研修室 5	388	5,720	81.5%	443	6,164	90.1%
地上階貸室計	2,588	27,805	82.2%	2,742	28,783	84.7%
市民活動シアター	130	9,266	37.6%	136	9,280	40.3%
合計	2,718	37,071	75.9%	2,878	38,063	78.4%

※利用率は開館日に対して 1 日1時間でも利用された日をカウントしている。

貸室全体の年間利用時間計は令和 6 年度より 814 時間増の 10,151 時間となった。

研修室 2 の利用率は、令和 6 年度とほぼ横ばいとなっているが、利用件数が減った一方で利用者数は増加しており 1 件あたりの利用者数が増加したことがわかる。

研修室 4 と 5 は利用件数、利用者数、利用率がいずれも増加をしている。特に利用率が増加をしていることから 1 日中部屋が利用されない日が減ったことがわかる。研修室 4 はほとんどの月で利用率が 90%を超えており、月によっては 100%、つまり毎日使われた月も見られた。(集計一覧:資料5「貸室利用状況(部屋別集計)」参照)

曜日別で利用件数を見ていくと、土曜日と日曜日の利用が多い。水曜日は第 2・4 週目が休館日のため件数は少ない。時間別では各曜日も 14 時台の利用日が多く、次いで 10 時台の利用が多いことからこの時間帯がピークだといえる。

月曜日は祝日になることが多いため、18 時以降も開館している日数は他の平日よりも少ないが、月曜日の 19 時と 20 時台の利用は他の平日と比較しても同程度となっている。理由としては、他施設で月曜日休館が多いことの影響が考えられる。

土曜日は平日とは異なり、19 時以降は利用が少ない。(集計一覧:資料 6「貸室利用時間(曜日・時間別集計)」参照)

■市民活動シアター

市民活動シアター(以下、シアター)の令和7年度の利用状況は、利用件数は136件、年間

利用率は40.3%となっており、全ての項目でいずれも令和6年度を上回っている。(集計一覧:資料5「貸室利用状況(部屋別集計)」参照)

利用状況	R6年度	R7年度
利用日数	126	136
利用時間	1,042	1,202
利用率	38%	40%
利用者数	9,266	9,280

利用の傾向は例年と同様に土日の利用率が高い。土曜日は88.2%(前年度90.2%)、日曜日は76.5%(前年度84.3%)で、令和6年度比で利用率は低下をしたが、土日はほぼ毎週利用されている。

令和6年度は平日の中で水曜日の利用率が低かったが、令和7年度は他の曜日と同程度利用されており、第2・4水曜日が休館日のため開館日が少ない中でも利用されたことがわかる。

曜日別 利用状況	R6年度		R7年度	
	件数	利用率	件数	利用率
月	11	21.2%	11	21.6%
火	9	17.6%	8	15.4%
水	2	6.9%	4	13.8%
木	8	16.0%	8	16.0%
金	10	19.6%	21	41.2%
土	46	90.2%	45	88.2%
日	43	84.3%	39	76.5%
合計	129	38.5%	136	40.6%

利用団体数は71団体で、下の表のとおり多様な団体に利用されている。

令和7年度の利用目的は、令和6年度と比較し「市民劇団」の利用が増えたことに伴って、「演劇」での利用が増加した。また、利用目的の上位2つは令和6年度に引き続き「コンサート」と「発表会」の利用である。

利用団体種別	団体数		利用目的	利用件数	
	R6年度	R7年度		R6年度	R7年度
NPO	17	16	シンポジウム・講演会	15	8
愛好会・グループ	19	18	交流イベント	23	18
市民劇団	1	5	演劇	9	18
実行委員会	11	5	コンサート	38	20
教室	3	6	上映会・展示会等	0	6
企業	4	4	発表会	33	45
各種団体	13	10	リハーサル(稽古)	8	10
個人	6	7	仕込・撤収	10	7
合計	74	71	撮影・録音・配信	0	4

利用目的は複数回答にて集計

2-2. 交流サロン

5階交流サロンにある「アクティブミーティングスペース」(以下、アクティブスペース)、「スタンダードミーティングスペース」(以下、スタンダードスペース)、「ソロワークスペース」の3か所に加え、1階の「マチノワひろば」と3階の「情報サロン」を合わせて集計を行っている。

それぞれの特徴は以下のようになっている。

〈アクティブスペース〉…1テーブル4席。最大2テーブル(8席)まで連結・移動が可能。

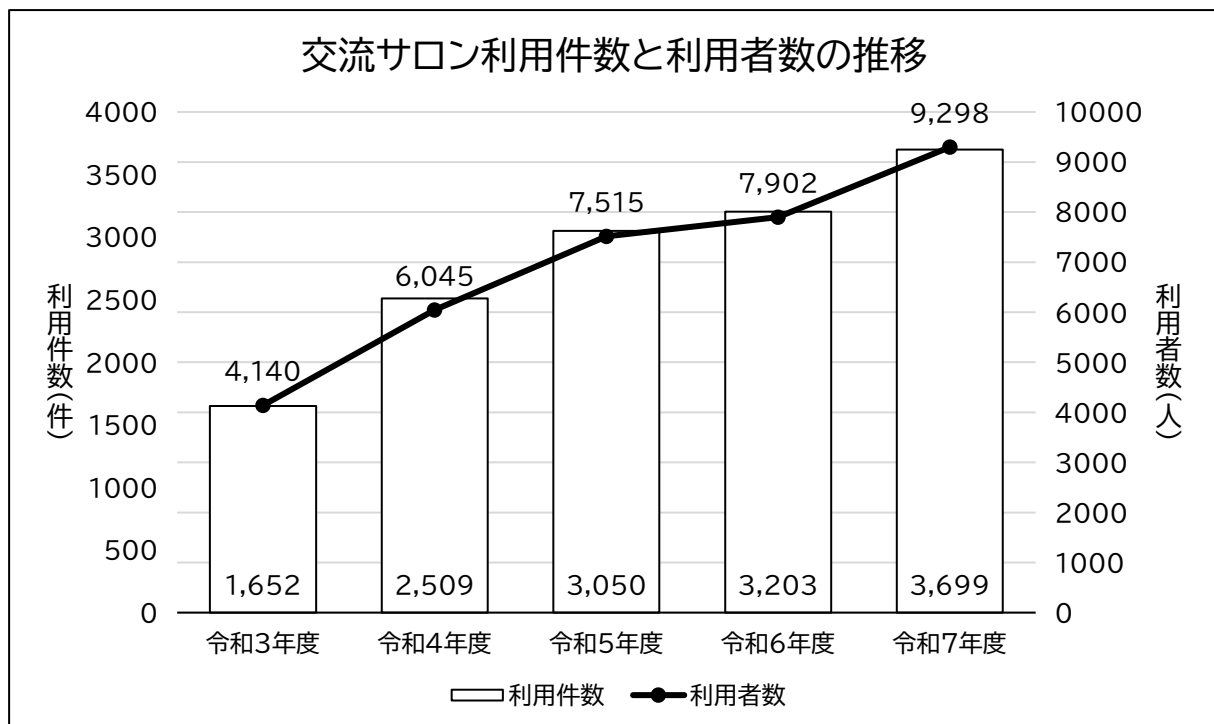
〈スタンダードスペース〉…1テーブル6席。固定レイアウトで追加はできないが、カーテンで仕切られている。

〈ソロワークスペース〉…1テーブル2席。少人数や個人での作業用のスペース。

〈マチノワひろば〉…市民活動団体以外の利用も可能。打ち合わせのほか、展示スペースと合わせたイベント利用もされている。

〈情報サロン〉…過去のイベントチラシやニュースレター等が保管されているスペースであり、資料の閲覧が可能。

令和7年度は、利用件数が3,699件(前年度比496件増)、利用者数が9,298人(前年度比1,396人増)と令和6年度より増加した。



交流サロンの利用形態では、利用件数、利用者数ともにスタンダードスペースの利用が多い。

スタンダードスペースの利用件数、利用者数はいずれも一番多いが、アクティブスペースとの平均人数を比較した際、スタンダードスペースは平均2.6人に対してアクティブスペースは平均2.3人と大きな差は見られない。そのことから、スタンダードスペースは少人数での利用、かつ入れ替わりが多いと考えられる。(集計一覧:資料7「交流サロン種別集計」参照)

2-3. 共同事務室(事務用ブース)、ロッカー、レターケース

■事務用ブース

◆第 27 期事務用ブース入居団体◆

令和 8 年 3 月末時点

- ブース NO.3 NPO 法人せんだいこども食堂(承認期間:令和 6 年 10 月～令和 7 年 9 月)
- ブース NO.5 NPO 法人 COLLAWAKE(承認期間:令和 6 年 6 月～令和 7 年 5 月)
- ブース NO.7 一般社団法人聖菩薩新宿駆込寺(承認期間:令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月)

事務用ブースは、第 26 期(承認期間:令和 6 年 9 月～令和 7 年 8 月)に 1 団体、第 27 期(承認期間:令和 7 年 9 月～令和 8 年 8 月)に 1 団体が入居し、途中 1 団体が 1 月末で退去している。

通年で入居者を募集しており、希望するタイミングで入居手続きができるようになっている。

利用件数の増加に伴い、利用者数も増加しており、活発に利用されているといえる。

また入居団体の中には 7 階のブース入居者専用のスペースに加え、5 階交流サロンも利用するケースがあり、サポートセンター全体が市民活動の拠点として活用されている。

事務用ブース利用状況	R6 年度	R7 年度
利用件数	272 件	307 件
利用者数	399 人	494 人

■ロッカー、レターケース

ロッカー、レターケースは第 27 期(承認期間:令和 7 年 9 月～令和 8 年 8 月)の募集を行った。募集数は、設置台数と同数の「ロッカー大」が 16 台、「ロッカー中」が 28 台、「ロッカー小」が 60 台であった。

応募数が設置台数を超えなかったため、1 団体 2 台まで利用可(ただし、台数が「ロッカー大」の 2 台利用は不可)として二次募集を行った。

令和 7 年度のロッカー年間平均利用率は全体では 63.5% (内訳:ロッカー大 92.7%、ロッカー中 85.7%、ロッカー小 45.4%)。ロッカー大は令和 6 年度よりも利用率が下回っている。

レターケースの平均利用率は令和 6 年度とほとんど変化はないが設置数の半数に満たない。

年平均利用率 ()内は設置数		R6 年度	R7 年度
ロッカー	大(16 台)	97.4%	92.7%
	中(28 台)	84.8%	85.7%
	小(60 台)	45.4%	45.4%
	合計(104 台)	63.7%	63.5%
レターケース(168 台)		45.3%	44.5%

取次件数は令和 6 年度と比較をして郵便の取次は 221 件、FAX の取次は 5 件減少した。

レターケースの利用台数はあまり変化が見られない状況で郵便が大幅に減少している。昨今の郵便事情やペーパーレス化等により郵便の取次ではなく、団体内の連絡用として活用されているケースが考えられる。

レターケース取次件数	R6 年度	R7 年度
郵便	1,428	1,207
FAX	60	55
合計	1,488	1,262

■活動報告書

ロッカー、レターケース利用団体は申込時の年 1 回、事務用ブース利用団体には年 2 回活動報告書の提出を依頼している。提出された活動報告書は、サポートセンター 3 階の情報サロンで、市民が閲覧できるように公開している。同じく 3 階で公開されている「団体情報ファイル」が市民活動団体のアーカイブとして、現在の活動状況に関わらず団体情報をストックしている一方で、活動報告書は、現在活動していることが確実な団体の情報を探す際に活用されている。

令和 7 年度に提出された活動報告書には、「人手不足」「メンバーの高齢化」「新しく人が入ってこない」等人材獲得に対して課題を抱えている団体が多く見受けられた。自分たちが掲げる目標に向け、これからも継続的に取り組む必要があり、今後も活動していきたいと考えていることがうかがえる。一方で自分たちの活動のアピールの仕方や広報等についても課題を抱えているとの見方もできる。

こういった声を踏まえ、今後の相談対応や事業立案に活かす予定である。

2-4. パソコン、印刷機、コピー機

■パソコン

これまで情報収集や資料作成のサポートとしてパソコンを設置していたが、個人用のパソコンやスマートフォンの普及、インターネットで検索の際にも館内 Wi-Fi でカバーができるようになり、利用数が減少したことを受けて、令和 7 年 7 月をもってサービスの提供を終了した。

■印刷機

令和 7 年度の印刷機の利用件数は前年度とほとんど変わりはないが、利用枚数は 444,672 枚（前年度比 31,017 枚減）となった。1 件当たりの印刷枚数が減ったと言える。

印刷機利用状況	R6 年度	R7 年度
利用件数(件)	609	608
利用枚数(枚)	475,689	444,672

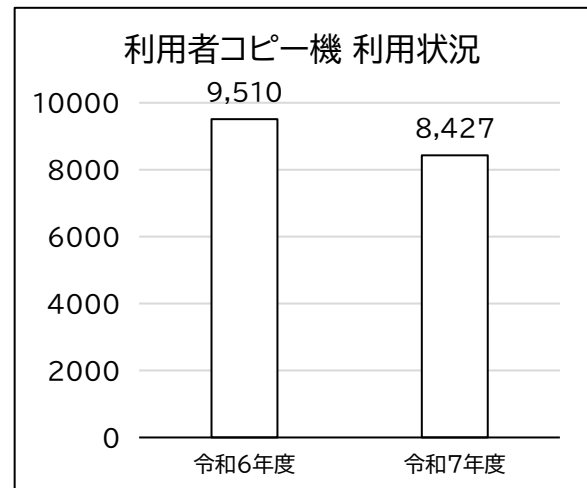
印刷物の内訳は令和 6 年度と大きな変化は見られなかった。

印刷物内訳	R6 年度	R7 年度
チラシ	202	209
ニュースレター	99	100
その他	314	310

■コピー機

令和7年度のコピー機利用枚数は 8,427 枚(前年度比 1,083 枚減)と令和 6 年度よりも減少をしている。

リース契約期間終了により令和 7 年度 3 月下旬にコピー機の入替えを行った。



3. 情報の収集・提供

3-1. 情報掲示等利用

市民活動団体のチラシ、ポスター、ニュースレター等、情報掲示利用件数は3,483件(令和6年度3,302件、前年度比105.5%)でわずかに増加した。それぞれを令和6年度と比べると、チラシは292件増加、ポスターは概ね横ばい、ニュースレターは112件減少した。ニュースレターの減少については、ニュースレターを電子化する団体が増えたことが理由として考えられる。

情報掲示等利用件数	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
チラシ	1,261	1,703	2,039	2,104	2,396
ポスター	139	194	234	225	226
ニュースレター	1,018	1,016	1,059	973	861
合計	2,418	2,913	3,332	3,302	3,483

「市民活動イベント掲示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト～」は、令和2年10月から、「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(通称:骨プロ)」をリニューアルしたものである。受け付けた市民活動団体のイベントチラシ画像をサポートセンターのホームページ上に掲示し、希望により各連携施設への配送も行った。掲示板利用件数は842件(令和6年度794件、前年度比106.0%)とわずかに増加した。

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用件数	366	566	710	794	842

■「市民活動イベント掲示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト～」参加施設

(令和7年度末時点10施設)

せんだいメディアテーク、日立システムズホール仙台、エル・パーク仙台、エル・ソーラ仙台、
 仙台市ボランティアセンター(福祉プラザの大規模修繕工事に伴い、仮移転先にて配架)、
 のびすく仙台、のびすく泉中央、のびすく長町南、せんだい環境学習館 たまきさんサロン、
 仙台市市民活動サポートセンター

※連携団体は、チラシの配架と施設ホームページ内に「市民活動イベント掲示板」のリンクバナーを設置している。

3-2. 団体情報の蓄積

団体情報とは、サポートセンターに持ち込まれたチラシ、マチノワひろばやマチノワギャラリー申し込み時に提出された団体紹介シートを保存し蓄積してきたものを指している。サポートセンター利用団体を軸にした市民活動団体の活動の軌跡である。繰り返しサポートセンターに持ち込まれる情報のみをファイルするようしており、市民活動団体の活動状況のアーカイブとしての機能を果たしている。

令和7年度末時点の団体情報数は、4,052団体である。令和6年度から86団体が新たに情報を持ち込んだ。

(集計一覧:資料8「団体情報ストック数 分野別集計」参照)

3-3. 市民活動団体への情報提供

市民活動団体をはじめ、地域課題に気づき活動を起こそうとしている人等、多様な主体の相談に応じることのできる環境を整えるために、市民活動に役立つ情報をテーマごとに編集した「市民活動お役立ち情報」を、サポートセンター内外で提供した。

サポートセンター内では、利用者がいつでも自由に持ち帰ることができるよう館内のチラシラックに配架し、残数が少なくなった頃合いで印刷し補充を行っている。また、相談対応の際に利用者に配布する資料として活用している。印刷状況からテーマごとの需要を分析すると、令和6年度と比較して、「規約の作り方」は減少した一方、「イベント実施のノウハウ」、「企画書作成のポイント」は大きく増加した。減少の要因として前年度は、相談対応にて「規約の作り方」を資料として提供していたことがあげられる。その点を踏まえると、令和7年度は規約等の組織基盤形成についてよりも、イベント実施、企画書作成といった実務的なスキルやコツに需要があったと考えられる。また、「チラシを作るコツ」も微増していることから、イベント実施や企画書作成と合わせ、広報の基本的なノウハウも求められていることが伺える。

サポートセンター外での提供としては、サポートセンターのホームページからテーマごとのPDFデータをダウンロードできるようにしている。

市民活動お役立ち情報 印刷状況

No.	テーマ	R6 年度累計	R7 年度累計
1	NPOって何だろう？	100	100
2	規約の作り方	150	100
3	イベント実施のノウハウ	100	150
4	企画書作成のポイント	100	140
5	チラシを作るコツ	150	170
6	助成金のいろは	150	140
7	活動報告書の作り方	100	110
8	情報発信のプラスアルファ	120	140
合計		970	1,050

3-4. 図書の貸出

令和 7 年度の図書登録者数は29名(令和 6 年度 23 名、前年度比126.1%)、貸出件数は165 件(令和 6 年度 97 件、前年度比170.1%)、貸出冊数は 281 冊(令和 6 年度 143 冊、前年度比 196.5%)。月に2~3回借りる人が3人いることで貸出件数、貸出冊数ともに大幅に増えた。最も多く借りられた書籍の分野は、市民活動の始め方や団体運営等に関する「NPO 関連全般」(45 冊)。次いで「福祉・医療・健康」の分野(37 冊)、「まちづくり」分野(37 冊)だった。サポートセンター利用団体の活動報告書や出版物を積極的に購入したり、寄贈を受けたりし、図書に加えることで、市民活動団体の情報の受発信の機会にもつなげた。

■図書の展示のテーマ

サポートセンター1 階に設置している本棚に 50 冊前後ずつ展示し、月1回入れ替えをしている。展示する図書の選定は社会情勢に加え、主催事業や仙台市、市民活動団体との連携企画に関連するものとした。事業参加等で来館した人に役立ててもらおうと共に、書籍をきっかけに事業への関心を促す工夫を行った。蔵書は現在 1,000 冊以上あり、閉架分は蔵書リストにて案内している。

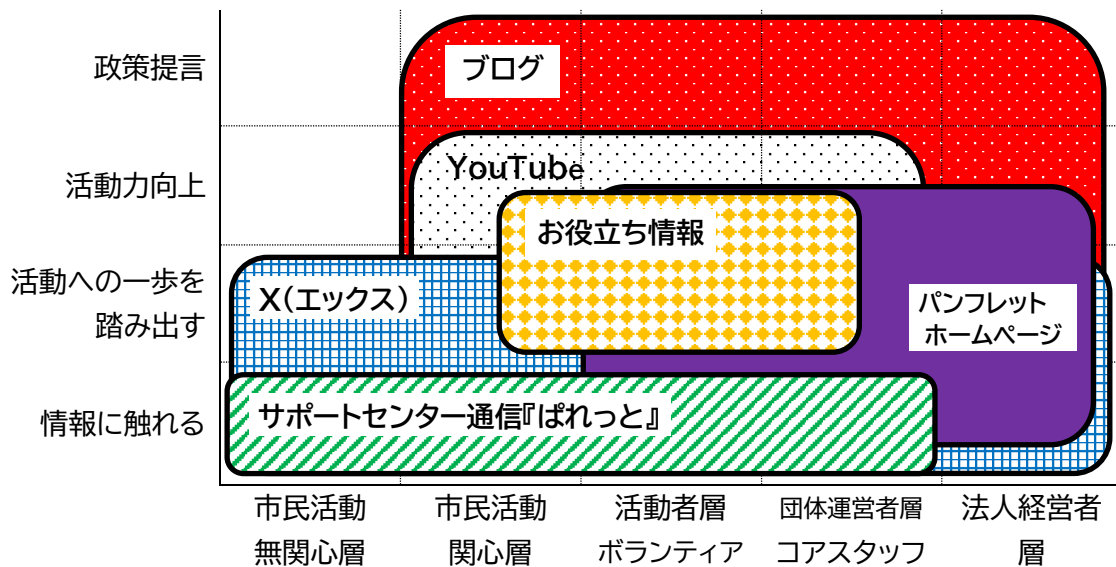
月	展示内容 ()内はマチノワひろば、マチノワギャラリー、事業等の関連事項
4 月	NPO・市民活動入門、県内の市民活動の紹介、郷土史、コミュニティ、国際、ジェンダー、フードロス
5 月	環境・ごみ問題 (ひろば)、難病(ギャラリー)、孤立防止・若者支援、NPO 組織運営・チームマネジメント
6 月	生涯学習(ひろば・ギャラリー)、インクルーシブデザイン、ジェンダー、国際協力
7 月	病気の当事者活動 (ひろば)、グリーンケア(ギャラリー)、終戦 80 年関連、環境、NPO と政治
8 月	仙台セタや郷土の文化に関する ZINE、地方とまちづくり、終戦 80 年関連、生涯学習、情報発信ハウツー
9 月	フードロス・子ども食堂・環境問題(ひろば・ギャラリー)、子ども支援・地域コミュニティ・NPO の資金調達
10 月	郷土史・まち歩き(ひろば)、福祉(ギャラリー)、市民活動入門、ジェンダー・文化芸術・国際問題
11 月	ジェンダー(ひろば)、過労死(ギャラリー)、建築とまちづくり、いじめ問題、NPO 入門、寄付
12 月	令和7年度新着図書、地域の情報に関する ZINE(ひろば)、伝統芸能(ギャラリー)、地域編集(【交流事業】藤本智士さんと、地域と「編集のチカラ」についてしゃべろう)
1 月	令和7年度新着図書、まち歩き(ひろば・ギャラリー)、NPO の資金調達(【人材育成事業】クラウドファンディング講座)、国際支援、環境
2 月	宮城の郷土関連(ひろば・ギャラリー)、ジェンダーと子育て関連(ギャラリー)、震災の記録と防災、教育関連(【交流事業】仙台学生ラボ×サポセンユースフェスタ)
3 月	震災の記録と防災、国際問題と平和、インクルーシブデザイン、NPO・市民活動入門・情報発信ハウツー

※マチノワひろば、マチノワギャラリーの展示内容については、「6.事業報告 事業1 情報収集提供事業 実施概要」(P.41)参照。

3-5. 情報発信

より多くの方へサポートセンターの情報や、市民活動・協働によるまちづくりに関する情報を届けるため、対象を市民活動無関心層から法人経営者層までの5段階に分け、下図のような形で、それぞれに効果的なツールを用いて発信した。

これまでサポートセンターが培ってきた広報戦略のノウハウは、広報に課題を抱える他機関にも役立てられている。生涯学習支援センターが主催する、市民センター職員等を対象としたスキルアップ研修では、「広報講座」の依頼を受けており、令和7年度で11回目となった。講座に出向くことで、他機関にサポートセンターの機能や連携の窓口をPRすることにもつながっている。



(1) サポートセンター通信『ぱれっと』の発行

多様な主体の協働によるまちづくり事例や、様々な市民活動情報に触れてもらうために、誰もが手に取りやすいフリーペーパースタイルで発行した。市民活動無関心層から団体運営者層までの層を対象としながらも、特に10~40代の無関心層~活動者層をターゲットに制作した。

令和7年度は、「コトハジメ」「募集して☑」「私のあしあと」といった、これまで主に裏面で扱ってきたコーナーについても表面で掲載できるよう、紙面デザインによる工夫を模索した。活動への関心を喚起する印象的な写真を大きく配置する等、表紙にふさわしく、かつ汎用性の高い紙面デザインのテンプレートを新たに作成し活用した。こうした工夫により、市民が気軽に参加できる取り組みや、活動の魅力・成果といった情報を、より効果的に発信できるようになった。表紙の写真やタイトルをきっかけに興味を持って手に取る人がいたり、掲載された紙面について「団体の財産になった」と話し広報に役立つ団体がいたり、多様なつながりを生み出すツールになっている。

(集計一覧:資料11「サポートセンター通信『ぱれっと』発行状況」参照)

『ぱれっと』コーナー名	概要
ワクワクビト	仙台の街をワクワクさせる人物を「ワクワクビト」として紹介。「人」に焦点をあて、その人自身の活動に対する思いや取り組む社会課題を発信。
ちまたのコラボ(協働)	企業、NPO、行政、商店街、教育機関等がコラボレーションし、地域の課題解決や魅力向上に取り組む事例を紹介。
市民活動 突撃レポート	市民活動団体の活動紹介。
今、私にできること	災害時等、有事に立ち上がった取り組みを紹介。
お役立ち本	サポートセンター図書コーナーから活動に役立つ本を紹介。
コトハジメ	「地域のために何かしたい、何か始めたい」という人たちのはじめの一步になる活動を紹介。
活動に+(プラス)	活動をレベルアップさせるようなお役立ち情報を紹介。
募集して☑	市民活動やボランティア活動を支えるヒト、モノ、コト等、募集中の情報を掲載。
このたびカタチになりまして	記念誌や調査報告、MAP や書籍等、活動の成果物を紹介。
私のあしあと	サポートセンターの事業参加者や、サポートセンターを利用した人のその後について紹介。
気になる〇〇	読者自身が今気になっている社会課題や実践しているちょっと社会にイイコト等を投稿し、他者の一步を後押し。

(2) ホームページの管理

ホームページでは、サポートセンターの機能紹介と事業に関する告知等を行った。

ユニークユーザーは 36,516 人(令和 6 年度 29,026 人、前年度比 125.8%)であり、前年度を上回った。ページビューは 136,404 回(令和 6 年度 141,578 回、前年度比 96.3%)であった。(集計一覧:資料 10「ホームページ アクセス件数集計表」参照)。

令和 7 年度は 7 月から実施した予約システムの試験導入に伴い、予約システムへアクセスするためのバナーをトップページに設置した。また、「貸室(総合)」のページには、変更になった貸室申込の仕組みや、新たに追加されたオンラインでの申込方法、クレジット決済での申込方法についてまとめ、掲載した。よく見られたページは、トップページに次いで、この「貸室(総合)」であったことから、これまでサポートセンターを利用してきた人をはじめ、多様な人が申込方法を確認するためにホームページにアクセスしたことが考えられ、結果として令和 7 年度のユニークユーザー数の増加につながった可能性がある。ユーザー数の増加を受けて、利用者が必要な支援メニューへ円滑にたどり着けるよう、さらなる導線改善が求められる。

他、「市民活動イベント掲示板」へのページアクセスが増加した。ほぼ毎月上位 5 位以内に入るほどアクセスされており、サービス認知度の向上が伺える。また、「イベント・講座(総合)」のページも、ほぼ毎月上位 5 位以内に入っており、特に主催イベントの開催が続いた令和 7 年 9 月から令和 8 年 2 月にかけては、頻繁にアクセスされている。(集計一覧:資料 10「ページランキング」参照)

(3) ブログの管理

サポートセンターの日常的な情報発信ツールとして、主催事業の告知や実施報告の他、市民活動団体のイベント・ボランティア情報、助成金情報等を掲載した。広報戦略上の位置付けとしては、市民活動関心層から法人経営者層までを幅広く対象としており、市民活動への気軽な参加につながる情報から、組織運営や資金調達等、活動継続に必要な情報、政策提言やネットワーク構築の事例まで多様な情報を掲載した。

令和 7 年度は、アウトリーチの様子等を、「スタッフレポート」として 17 件紹介した。また、サポートセンター通信『ぱれっと』取材時の様子や、紙面には書ききれなかった内容についても、「取材日誌」として 21 件紹介。活動の雰囲気や、活動者の人柄等、より具体的に伝えることで、ブログの読者に市民活動を身近に感じてもらい、活動参加への心理的ハードルを下げることに努めた。また、日ごろの相談対応を通じて把握した団体の最新情報や活動の課題(困りごと)に応じて、団体のボランティア募集やイベント情報等活動の支援につながる情報を、「NPO 等からの情報」として 100 件紹介した。掲載団体からは「ボランティア募集に応募があった」「掲載してもらったブログを団体の広報に役立てている」といった声も寄せられ、活動参加のきっかけや、活動支援につながっている。

訪問者数(ユニークユーザー)は 139,087 人(令和 6 年度 78,020 人、前年度比 178.3%)であり、令和 6 年度から大幅に増加した。一方で閲覧数(ページビュー)は 485,109 回(令和 6 年度 848,741 回、前年度比 57.2%)となり、令和 6 年度から大幅に減少した。

※一連の大きな変動について、ブログ運営元である CANPAN 運営事務局への確認により、システム上の不具合ではないことを確認済み。

年間の実施目標である記事投稿数 250 本と、訪問者数(ユニークユーザー)40,000 人については、大きく上回る形で達成。また、年間 5 件以上の掲載を目指した事業者の社会貢献活動事例や協働事例については、企業等が行っている地域の課題解決・魅力向上に向けた取り組み、地域イベントに協賛した事例等 36 件紹介した。

ブログ投稿記事数及びアクセス数			
R7 年度	記事投稿数	訪問者数 (ユニークユーザー)	閲覧数 (ページビュー)
4 月	24	5,912	71,051
5 月	32	6,843	58,901
6 月	25	6,098	40,623
7 月	24	10,308	41,850
8 月	29	24,992	47,473
9 月	23	11,395	28,719
10 月	25	15,433	36,818
11 月	28	24,221	44,889
12 月	27	13,333	41,158
1 月	22	7,600	19,667
2 月	20	7,173	38,779
3 月	18	5,779	15,181
合計	297	139,087	485,109
R6 年度	337	78,020	848,741

(4)X(エックス)の管理

市民活動無関心層から法人経営者層まで全ての層を対象に、ホームページ、ブログの更新状況等、サポートセンターからのお知らせを拡散させるために X を運用した。

フォロワー数は、令和 6 年度末時点は 1,376 人だったのに対し、令和7年度末には 1,440 人に増加した。地域メディアや、社会の課題に関心がある個人・団体、サポートセンター主催事業参加者等からのフォローがあり、リポストで流れてきた情報を見て講座に参加した人もいた。様々なキーワードをきっかけにサポートセンターや多様な市民活動に触れる機会につながっており、サポートセンターを知らない人や市民活動無関心層へ情報を届ける役割を果たしている。

(5)YouTube チャンネル「サポセンちゃんねる」の管理

市民活動関心層から団体運営者層を対象に、市民活動や協働に関する動画や、サポートセンターで実施した事業の動画をアーカイブとして発信することで、市民活動の裾野を広げ協働の理解促進を図った。また、連動して X やブログでもチャンネルについて発信し、視聴を促した。

チャンネル登録者数は、令和 6 年度末時点は 50 人だったのに対し、令和 7 年度末時点には 54 人に増加した。新たに動画を 3 本公開し、動画は計 15 本となった。

<令和 7 年度公開した動画の視聴回数(令和 7 年度末時点)>

公開日	動画名	視聴数
令和 8 年 3 月 17 日	【はじめてのクラウドファンディング】①READYFOR 株式会社 井上桃子さん講座	81 回
3 月 17 日	【はじめてのクラウドファンディング】②2025 SENDAI 光の ページェント実行委員会 高橋圭さん報告	46 回
3 月 17 日	【はじめてのクラウドファンディング】③NPO 法人メディアージ 漆田義孝さん報告	46 回

(6)NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用

仙台市からの依頼により、令和4年度から仙台市内 NPO 法人の資金調達を増やすことを目的に、助成金情報や団体運営に役立つ講座等の情報をメールマガジンとして届けた。発行は毎週火曜日で、1回につき 4~6 件(年間の情報掲載件数はのべ 206 件)発信している。

登録者数は、令和 6 年度末時点は 228 人だったのに対し、令和 7 年度末時点には 308 人に増加した。活用を促すための発信を X で定期的に行ったり、相談対応の際に案内したりする等、登録者数の増加に努めた。

4. 相談・問い合わせ対応

(1) 目的

市民活動支援施設として、①施設の活用を含めた利用相談(施設利用)、②市民活動に関わる情報発信及び収集支援(施設サービス)、③専門性を要する市民活動を行う上での個別の運営等の相談(活動相談)を実施し、個人から団体、行政や企業等、幅広い主体者に対し、情報の提供や経営相談等、専門的な幅広い支援を行った。

(2) 概要

施設開館時間内に、予約の有無を問わず、市民活動に関わる相談を無料にて実施した。

主に窓口にて行う施設利用判断や市民活動団体の情報提供と、NPO法人の立ち上げや団体運営や資金調達等個別の事案に対して、窓口や電話を問わず相談対応する個別対応がある。

(3) 集計項目・集計方法

相談事業の集計項目は、相談者の属性と対応内容に分け、内訳は次のようにした。相談者の属性については、「市民(個人)」、「市民活動団体」、「町内会」、「企業(営利組織)」、「大学(教育機関)」、「行政」、「その他」に分類した。また、対応内容については、「自立」、「連携」、「創発」、「情報」、「その他」に分類した。集計結果については次の3種類の方法で行った。

① 相談サマリー

貸室利用やチラシ配架等、施設利用の問合せを「窓口」、活動内容や運営相談等を「相談」これらに当てはまらない対応を行った場合に「その他」、事業参加者の所属を集計する「事業」に分類した。事業参加者の意見も合わせて記録することにより、利用者サービスの向上に役立っている。ただし、センター事業に複数回参加した場合はカウントされないため、各事業参加者の総数と相談サマリーにおける「事業」集計は一致しないため、「資料12-1」での記載のみとし、以下の集計等では記述しないこととする。

② 相談集計結果【主訴－相談主体】

上述の相談サマリーのうち「相談」について、相談主体の属性と相談主訴を詳細に集計した。自立・連携・創発の理念に基づいた12項目と細かい分類を行うことで、相談主体の状況に合わせた対応記録と、より具体的な相談の傾向を把握し、相談ニーズの分析を目指した。

横軸の「伴走」については、サポートセンター事業「伴走型相談による個別相談」該当候補の相談に関して、新規相談と継続対応について集計した。

③ 相談集計結果【内容－相談者】(複数選択あり)

例えば、NPO法人と協働する団体が同席した対応や、団体の立ち上げ相談の内容から助成金の相談に移行した場合等、複数の属性や内容を集計していなかった経緯がある。そこで、対応した全ての内容と相談者を記録し、かつ複数選択を含めることで、柔軟に対応する集計を行った。

(4) 成果

① 相談件数

相談件数は

- ・貸室利用やチラシ配架等、施設利用の問合せを「窓口(窓口利用相談)」
- ・活動内容や運営相談等を「相談(活動相談)」
- ・これらに当てはまらない対応を行った場合に「その他」

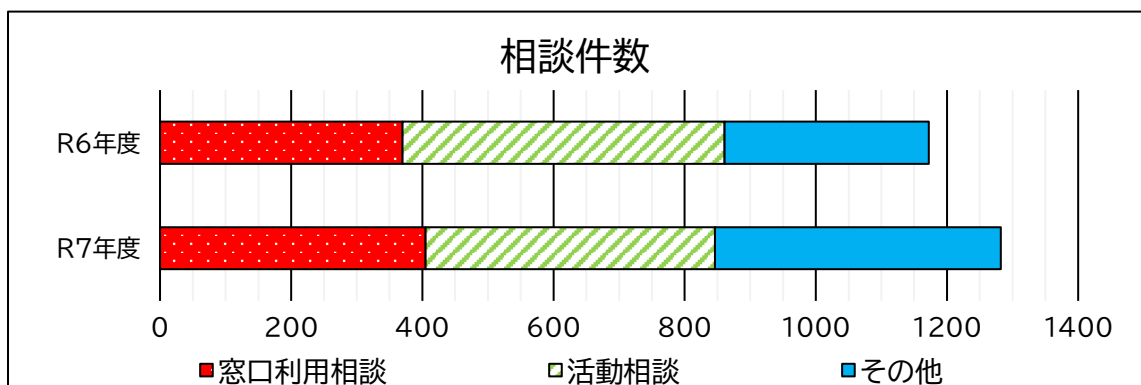
と分類し、集計した。

令和 7 年度の相談件数は 1,282 件と、令和 6 年度の 1,172 件から 110 件増加した。前指定管理期間を含めると 4 年間連続で 1,000 件を超えた。内訳は、「窓口(窓口利用相談)」405 件、「相談(活動相談)」441 件、「その他」436 件だった。(集計一覧:資料12-1参照)

令和 3 度までは「窓口(窓口利用相談)」が「相談(活動相談)」を上回っていたが、以降は 4 年間連続で「相談(活動相談)」が「窓口(窓口利用相談)」を上まわる結果となっている。

令和 7 年度の「その他」の件数は令和 6 年度から 125 件(前年度比 140.2%)も増加し、相談 種別の中で最も変化が見られた。理由としては、令和 7 年度は、アウトリーチ相談を重点に置き、市民活動の困りごとを支援してきた。関係性構築、課題把握をするために、ヒアリングを丁寧に行った結果だと思われる。

相談種別	R6 年度		R7 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
窓口	370	31.6%	405	31.6%	109.5%
相談	491	41.9%	441	34.4%	89.8%
その他	311	26.5%	436	34.0%	140.2%
合計	1,172	100.0%	1,282	100.0%	109.4%

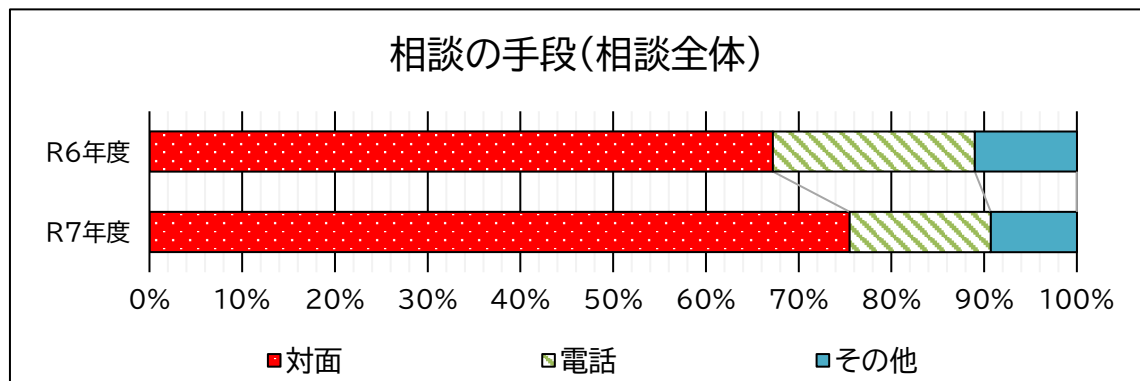


② 相談の手段

令和 7 年度は全体として 1,282 件と令和 6 年度より 110 件増加した。「対面」での相談は 968 件と令和 6 年度 788 件から 180 件増加した。一方で、「電話」は 195 件と令和 6 年度の 255 件から 60 件減少した。お問い合せフォームやオンライン、メールでの相談等の「その他」は 119 件と令和 6 年度の 129 件から 10 件減少した。

令和 7 年 7 月からは、貸室・市民活動シアター共に申し込み受付について、新システムに移行したため、オンラインからの直接申し込みが可能となった。団体との連絡のやり取りは主にチャットを使用するため、チャットでの問い合わせ内容については必要に応じて「その他」で記録している。

相談手段	R6 年度		R7 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
対面	788	67.2%	968	75.5%	122.8%
電話	255	21.8%	195	15.2%	76.5%
その他	129	11.0%	119	9.3%	92.2%
合計	1,172	100.0%	1,282	100.0%	109.4%



③ 相談全体における相談者の属性

「市民活動(非営利団体)」は、前指定管理期間(令和 2 年度～令和 6 年度)を含めると、令和 2 年度 432 件(構成比 63.6%)、令和 3 年度 485 件(構成比 57.4%)、令和 4 年度 632 件(構成比 58.7%)、令和 5 年度 647 件(構成比 58.8%)と、令和 6 年度 737 件(構成比 62.9%)、令和 7 年度 855 件(構成比 66.7%)と件数も構成比も増加の傾向にある。

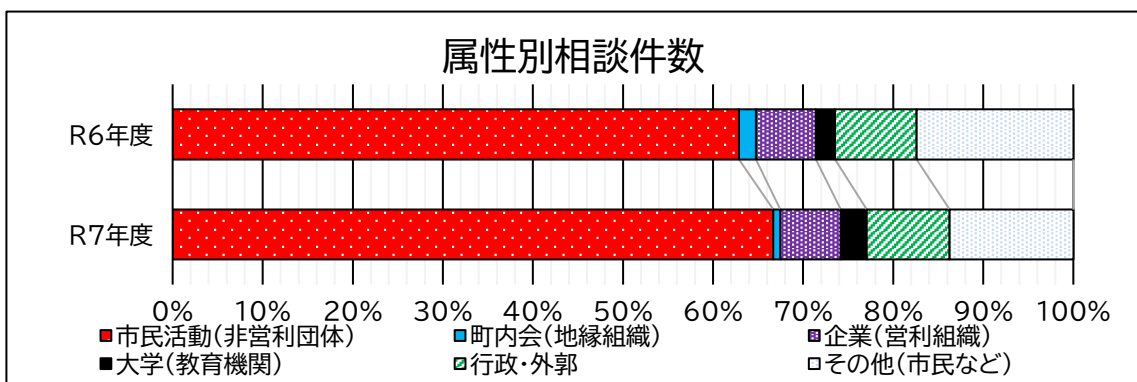
一方で、「その他(市民など)」は、令和 2 年度 168 件(構成比 24.7%)、令和 3 年度 241 件(構成比 28.5%)、令和 4 年度 292 件(構成比 27.1%)を境に、令和 5 年度 287 件(構成比 26.1%)、令和 6 年度 204 件(構成比 17.4%)、令和 7 年度 176 件(構成比 13.7%)となっており、令和 4 年度以降、減少傾向である。

令和 6 年度と令和 7 年度だけで件数及び構成比を比較した場合はわかりにくいですが、令和 4 年度から比較したところ、「市民活動(非営利団体)」と「その他(市民など)」の件数及び構成比が共に負の相関関係となっていることが確認できた。

他、「企業(営利組織)」86 件(令和 6 年度 78 件、前年度比 110.3%)、「大学(教育機関)」37 件(令和 6 年度 25 件、前年度比 148.0%)、「行政・外郭」は 118 件(令和 6 年度 106 件、前年度比 111.3%)と共に令和 6 年度から増加したが、「町内会(地縁組織)」は 10 件(令和 6 年度 22 件、前年度比 45.5%)と減少する結果となった。

(集計一覧:資料 12-1「相談サマリー」参照)

属性別相談件数	R6 年度		R7 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動(非営利団体)	737	62.9%	855	66.7%	116.0%
町内会(地縁組織)	22	1.9%	10	0.8%	45.5%
企業(営利組織)	78	6.7%	86	6.7%	110.3%
大学(教育機関)	25	2.1%	37	2.9%	148.0%
行政・外郭	106	9.0%	118	9.2%	111.3%
その他(市民など)	204	17.4%	176	13.7%	86.3%
合計	1,172	100.0%	1,282	100.0%	109.4%



④ 活動相談における属性別相談件数

令和7年度の「活動相談」における全体の相談件数は、令和6年度と比べて50件減少した。「大学(教育機関)」は僅かに増えたが、他の属性別相談については全て減少する結果となった。(集計一覧:資料12-1「相談サマリー」参照)。

「活動相談」で最多となった属性は、「市民活動団体(非営利団体)」で241件であった。「市民活動(非営利団体)」からの相談の内訳は、それぞれ次のような内容である。「任意団体」からは、会則・規約の作成、広報戦略や口座開設、助成金申請やキャッシュフロー等の組織運営基盤に関する相談等があった。「NPO 法人」からは、仙台市市民協働事業提案制度の事前相談、チームビルディング等があった。「一般社団法人」からは設立相談やチラシ作りについて等があった。

「町内会(地縁組織)」には、助成金情報提供、防災訓練の活動事例の情報提供等があった。

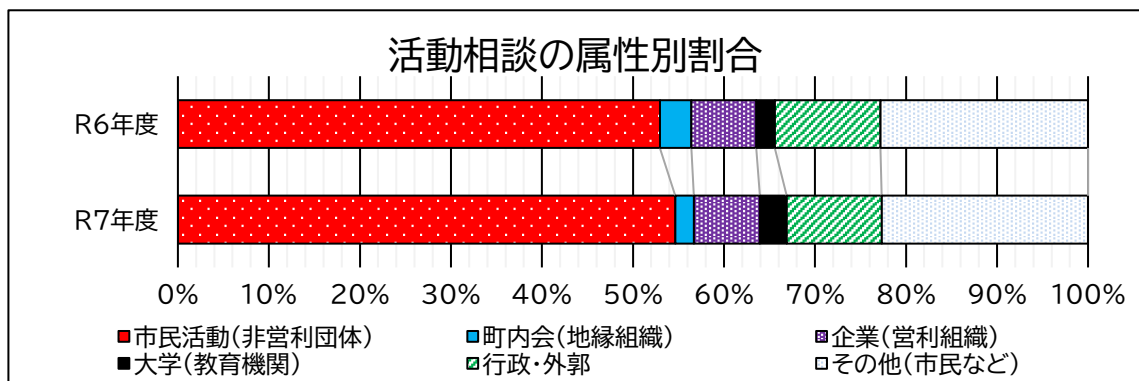
「企業(営利組織)」からは、NPO との連携で社会課題に取り組みたいとの相談、地域づくりパートナープロジェクト推進事業の事前相談等であった。

「大学(教育機関)」から、情報発信の協力依頼があり対応した他、行政と NPO の協働事例の調べ方について情報提供した等があった。

「行政(仙台市・仙台市以外・外郭)」からは、仙台市文化振興課から「市民活動イベント掲示板(骨プロ)」新規加入、防災環境都市推進室からサポートセンターとの連携、法務省東北矯正管区から受刑者ができるボランティアの相談等があった。

「その他(市民など)」からは、何かはじめてみたいという思いの整理、ボランティア情報提供等に対応した。

活動相談における 属性別相談件数	R6 年度		R7 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動(非営利団体)	260	52.9%	241	54.6%	92.7%
町内会(地縁組織)	17	3.5%	9	2.0%	52.9%
企業(営利組織)	35	7.1%	32	7.3%	91.4%
大学(教育機関)	10	2.0%	13	2.9%	130.0%
行政・外郭	57	11.6%	46	10.4%	80.7%
その他(市民など)	112	22.8%	100	22.6%	89.3%
合計	491	100.0%	441	100.0%	89.8%



⑤ 相談主訴

「活動相談」では、相談の主訴を「協働によるまちづくりの推進のための基本方針」(平成28年策定)であげられている。「自立」「連携」「創発」の3つに「情報」「その他」を加えた5つに分類し、集計した。

「自立」は活動の立ち上げに向けた想いの整理や、組織の運営についての相談を集計した。「連携」は多様な主体との協働についての相談を集計した。「創発」は政策の提言や制度の利用についての相談を集計した。「情報」は制度や活動等の情報収集を集計した。「その他」は何かしらの課題を抱えた当事者からの相談やサポートセンターへの視察、またここまであげたものに当てはまらないものを「その他」として集計した。

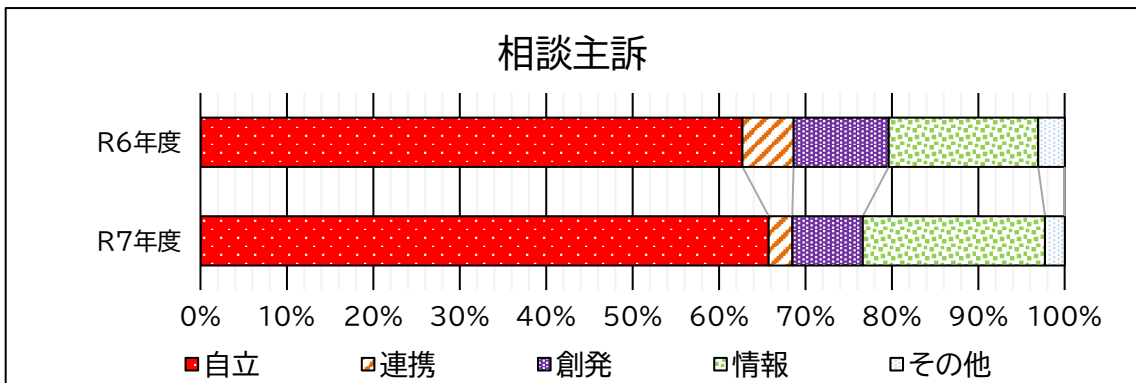
令和7年度の全体の相談件数は、令和6年度と比較して50件減少した。全体で見ると「情報」が令和6年度から8件と僅かに増えたが、他は全て減少した。

サポートセンターに寄せられた「活動相談」で最も多かったのは「自立」の段階で290件対応した。「自立」は更に3つに分類され、内訳は「課題解決に取り組もうとする段階の相談」が59件(令和6年度71件)、「課題発見・企画立案・事業遂行に関する相談」が51件(令和6年度66件)、「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)に関する相談」は180件(令和6年度171件)だった。「自立」全体では令和6年度から減少したが、「組織運営基盤」においては増加している。理由としては、令和7年度事業では、専門家・実践者による連携で市民活動の困り事を支援してきたことや、アウトリーチ型の活動力強化(出前講座)で広報相談や助成金相談を実施してきたことで、伴走相談・継続的な相談になったことも影響していると思われる。(資料一覧:資料12-2参照)

「連携」の段階の相談は12件、前年度比では最も低い41.3%となった。対応した相談についてフォローアップしていきたい。

「創発」の段階では、「仙台市協働事業提案制度」「地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」の申請者に向けた事前相談が件数の殆どを占めた。

主訴	R6 年度		R7 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
自立	308	62.7%	290	65.7%	94.2%
連携	29	5.9%	12	2.7%	41.3%
創発	54	11.0%	36	8.2%	66.7%
情報	85	17.3%	93	21.1%	109.4%
その他	15	3.1%	10	2.3%	66.7%
合計	491	100.0%	441	100.0%	89.8%



⑥ 相談主体別—相談主訴

相談主体別に相談主訴を見ると、「市民活動団体(非営利団体)」からの相談が 241 件と最も多く、次いで「その他」の 100 件、「行政・外郭」が 46 件と続いた。

「市民活動団体(非営利団体)」では「自立」が最多で 178 件あった。内訳では「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)に関する相談」が 141 件と最多だったため、「組織運営基盤」を軸に主体別に見ていく。「市民活動団体(非営利団体)」の内訳として、任意団体は 107 件あり、相談内容は、広報戦略、資金調達や助成金申請、規約の作成、法人化の妥当性等があった。NPO 法人からは 20 件あり、ボランティア募集や事務局運営、助成金申請や定款の変更の相談の他、団体の支援対象者へのアプローチについて相談があった際、サポートセンターに該当のノウハウが無く、専門家・実践者と連携することで対応できたケースもあった。他、一般社団法人からは 12 件の相談があり、チームビルディングや資金調達の相談があった他、土業と連携して相談に当たったケースもあった。一般社団法人に対する定款や会計等の相談に活用できるマニュアルが少ないため、サポートセンター内で学びの機会を増やす必要がある。

「町内会・地縁組織」では、「自立」の相談が 5 件あり、そのうち「組織運営基盤」は 3 件(うち「町内会」3 件、「地縁組織」2 件)あった。「町内会」からは、地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業の事前相談前に申請書類内容を確認して欲しいという相談等、「地縁組織」からは組織内部の困り事に関する相談等があった。

「企業(営利組織)」からの「自立」の相談は 12 件あり、そのうち「組織運営基盤」は、6 件(うち「地元企業」2 件、「個人事業主」4 件)あった。「企業」からは市民センターとの連携事業の広報依頼等があった。「個人事業主」からは社会貢献事業として取り組む「子ども食堂」運営のため「資金調達講座」の依頼があり実施等した。

「大学(教育機関)」からの「自立」の相談は 6 件あり、そのうち「組織運営基盤」は 3 件(うち「大学」2 件、「小学校・高校」1 件、「その他教育機関」1 件)あった。「大学」からは、仙台若者チャレンジアワードの応募団体から情報発信力を強化したいとの相談等があり、「高校」からは過去に「ぱれっと」で取材した活動について広報協力の依頼があった。その他教育機関からは、法人設立の相談依頼があった。

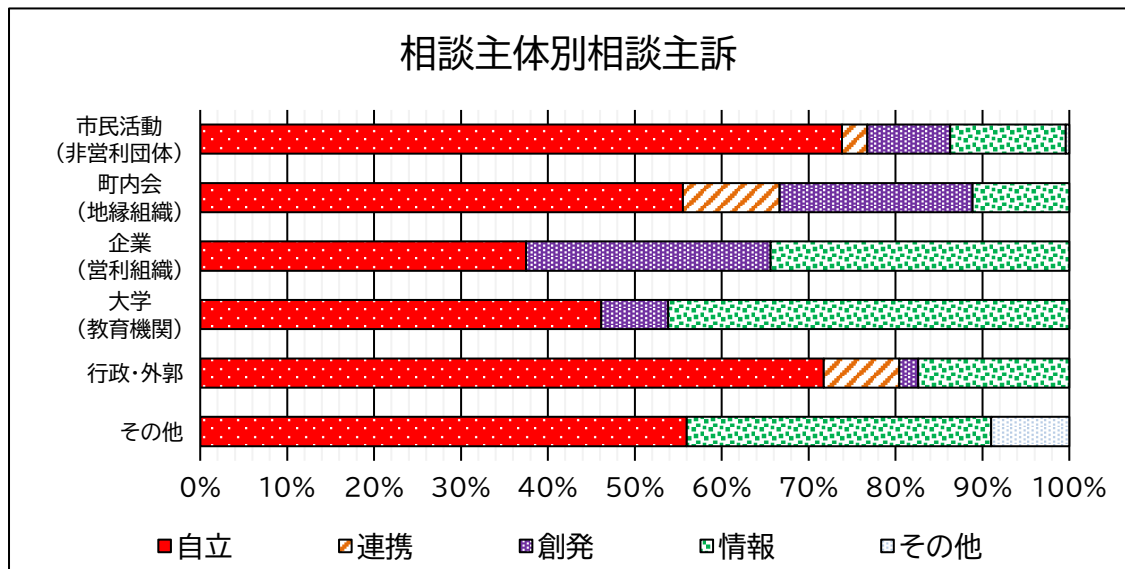
「行政・外郭」では、「自立」の相談が 33 件あり、「組織運営基盤」が 15 件(うち「仙台市」7 件、「仙台市以外」1 件、「外郭」7 件)あった。「仙台市」では、幸町市民センターから「令和 7 年度広報企画研修」の依頼があり「出前講座」を実施し、参加者からの相談等に対応した。「仙台市以外」からはイベント告知について相談があった。「外郭」からは、中田西部地区社会福祉協議会からの依頼で広報紙づくりの伴走相談等対応した。

「その他・市民」では、「自立」の相談が 56 件あり、「組織運営基盤」は 9 件(「市民」9 件、「その他いずれにも当てはまらない組織」0 件)あった。子ども食堂立ち上げに際し助成金の相談があった他、団体設立や法人設立の相談等があった。また「市民」からの相談に関しては、「自立」のうち「課題解決に取り組もうとする段階」が最も多く 42 件あった。相談内容は、まだ組織化していない個人から、「活動の立ち上げや活動に参加したい」という他、活動を始めた個人からの活動相談にも対応した。

令和 7 年度の継続対応中の相談は全体で 11 件と、令和 6 年度の四分の一に減少したが、次年度に引き継いでいけるようフォローアップしていきたい。

(資料一覧:資料 12-2「相談集計結果【主訴—相談主体】」参照)

属性別 主訴	市民 活動	町内会	企業	大学	行政・ 外郭	その他	合計
自立	178 件	5 件	12 件	6 件	33 件	56 件	290 件
連携	7 件	1 件	0 件	0 件	4 件	0 件	12 件
創発	23 件	2 件	9 件	1 件	1 件	0 件	36 件
情報	32 件	1 件	11 件	6 件	8 件	35 件	93 件
その他	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件	9 件	10 件
合計	241 件	9 件	32 件	13 件	46 件	100 件	441 件



⑦ 相談主体別一相談内容(複数選択あり)

ここに件数としてあげているのは、1件の相談の中に含まれる主たる相談種別の他に副訴として選択できたものを複数あげているため、件数の増減は相談の傾向として判断した。

活動相談の内容・相談者について複数選択による集計結果を見ると「自立」段階の相談が429件で最多で、次いで「情報」は245件、「連携」は87件、「創発」は50件、「その他」は37件と続き、合計は848件だった。(資料一覧:資料12-3「相談集計結果【内容一相談者】参照)。

「自立」の副訴429件は、「連携」「創発」「情報」等で対応した内容、例えば、市民活動団体やボランティアの情報提供を求められ対応した際に、「何か活動をはじめてみたい」という「自立」の芽生えが含まれていたり、助成金の情報提供を求められ対応した際に、「自立」に含まれる「組織運営基盤」の要素が含まれたりしたものを、副訴として集計した。

また、前頁の「⑧相談主体別一相談主訴」では、「連携」は12件と少ないが副訴では、87件を集計している。例えば、協働の基盤を整えるために、助成金情報の提供を求められた際は、主訴を「情報提供」とし、「連携」の相談であっても、結果として対応内容が情報提供だった場合は、副訴に「多様な主体による協働の相談」「組織運営基盤」が該当することになる。

「情報」については245件あるが、相談主体別一相談主訴(資料一覧:資料12-2「相談集計結果【主訴一相談主体】参照)は93件、件差が152件であった。次いで件差が大きいのが「課題発見・企画立案・事業遂行に関する相談」113件で、相談主体別一相談主訴「課題発見・企画立案・事業遂行に関する相談」51件のため、件差は62件と「情報」が90件多い。「情報」が副訴に上がる場合は、主訴の相談に併せて何かしらの情報収集・提供を行うケースが多いことがうかがえる。

⑧ その他(上記相談内容にも含まれる)

1)仙台市市民協働推進課に関連する相談件数 ※2か月に渡った対応のため、別途記載した。

仙台市市民協働推進課の「市民協働事業提案制度」と「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談に対応した。

○「市民協働事業提案制度」

令和7年度実施事業の事前相談:令和7年6月~7月 12件(オンライン相談2件)

○「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」

令和7年度実施事業の事前相談:令和7年9月~10月 20件(オンライン相談5件)

2)仙台市企業支援センターに関連する相談件数 ※年間通した対応のため、別途記載した。

平成28年度から、せんだい創業支援ネットワークの構成団体として、公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市企業支援センター「アシ☆スタ」と連携し、「起業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参画している。

○「起業・創業なんでも相談DAY」

令和7年度は年間を通し、8件

5. 交流・連携・その他

5-1. 外部組織との連携

他組織とサポートセンターの連携を深め、効果的な管理・運営を行うため、下記の定例会や評議会等への参加や業務協力を行った。

連携先	日程	内容
会議・事業連携等		
杜の都の市民環境教育・ 学習推進会議 (FEEL Sendai)	令和 7 年 4 月 21 日(月)	第 1 回定例会参加
	令和 7 年 5 月 20 日(火)	第 1 回分科会(せんだい環境ユースカレッジ部会)会議参加
	令和 7 年 6 月 9 日(月)	第 2 回分科会会議参加
	令和 7 年 9 月 19 日(金)	第 2 回定例会参加
	令和 7 年 10 月 28 日(火)	せんだい環境ユースカレッジ「南極から地球環境・SDGsを知る！」
	令和 7 年 11 月 6 日(木)	第 3 回分科会会議参加
	令和 8 年 3 月 17 日(火)	第 3 回定例会参加
みやぎ NPO プラザ	令和 7 年 4 月 30 日(水)	新年度事業の情報交換
	令和 8 年 3 月 12 日(木)	令和 7 年度第 2 回宮城県内 NPO・市民活動支援施設情報交換会
仙台市起業支援センター アシ☆スタ	令和 7 年 5 月 22 日(木)	せんだい創業支援ネットワーク会合
INTILAQ 東北 イノベーションセンター	令和 7 年 6 月 23 日(月)	担当者挨拶
公益財団法人 仙台市市民文化事業団	令和 7 年 6 月 30 日(月)	助成事業でのフォローアップ連携について相談
社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会	令和 7 年 5 月 8 日(木)	担当部長・係長挨拶
	令和 7 年 7 月 14 日(月)	ボランティア・市民活動ネットワーク会議
	令和 7 年 8 月 25 日(月)	仙台市災害ボランティアセンター本部設置訓練
	令和 7 年 11 月 25 日(火)	令和 7 年度第 2 回評議員会
	令和 7 年 12 月 3 日(水)	令和 7 年度第 2 回ボランティア・市民活動に関する情報交換会
	令和 8 年 1 月 21 日(水)	社内インターン訪問
	令和 8 年 3 月 25 日(水)	令和 7 年度第 3 回評議員会

その他		
仙台市まちづくり政策局 防災都市環境推進室	令和 8 年 1 月 8 日(木)	音楽ホールの説明、意見交換
	令和 8 年 2 月 4 日(水)	令和 9 年度アジア・太平洋防災閣僚級会議における市民活動サポートセンターの利用等について打合せ

5-2. 会議・研修

(1) 会議

サポートセンターの管理・運営を円滑に、かつ効果的に行うため、下記のような各種会議（打ち合わせ）を開催した。

○仙台市と指定管理者との定例打ち合わせ

開催頻度：1 回／月

所要時間：約 2 時間／回

内容：管理運営状況の報告・連絡・相談や懸案事項の協議

○施設運営会議

開催頻度：2 回／月

所要時間：約 2 時間／回

構成メンバー：センター長、副センター長、および各主任

内容：各事業の進捗管理とサポートセンター運営に関する課題や懸案事項に関する協議

○ケースミーティング・全体ミーティング

開催頻度：2 回／月（休館日活用）

所要時間：1 時間／回

内容：相談業務および施設運営管理についての共有や研修

○チームミーティング、部門会議、各事業ミーティング

随時開催

(2) 研修

施設運営や事業運営、NPO・市民活動について、また中間支援を行う上で必要な知識を得るため、外部研修を積極的に活用した。

内部研修では、4 月から仙台市よりサポートセンターに移管された還付業務や印刷機・コピー機の料金回収、7 月から導入された新受付システムの操作に関連する内容を扱った他、相談業務の対応力を伸ばしていくためのロールプレイ研修に力を入れた。また、スタッフが受講してきた外部研修の内容をスタッフ全員に伝える「伝達研修」も取り入れた。

■外部研修

研修実施主体	日程	内容	人数
みやぎ NPO プラザ	令和 7 年 5 月 22 日(水)	行政職員のための NPO 理解講座	4 名
	令和 7 年 5 月 29 日(木)	基礎から学べる！NPO 法人設立講座	1 名
一般社団法人 みやぎ連携復興センター	令和 7 年 7 月 31 日(木)	みやぎ地域コーディネーター研修会	1 名
仙台市	令和 7 年 8 月 6 日(水)	令和 7 年度広報企画	2 名
	令和 7 年 8 月 19 日(木) ～22 日(金)	情報セキュリティ(基礎編)	6 名
	令和 7 年 8 月 28 日(木)	情報セキュリティ(応用編)	3 名
	令和 7 年 8 月 29 日(金)	令和 7 年度地域まちづくり担当職員研修	1 名
	令和 7 年 9 月 11 日(木)	令和 7 年度不当要求行為等対応講習会	1 名
	令和 7 年 9 月 19 日(金)	令和 7 年度公共施設自主点検研修会	1 名
特定非営利活動法人 日本 NPO センター	令和 7 年 8 月 21 日(木)	ともに市民社会をつくる学びのコミュニティ(ともしび)2025 年度 NPO スクール:組織基盤強化編	1 名
	令和 7 年 8 月 21 日(木)	NPO 支援センター初任者研修会 2025	2 名
	令和 7 年 9 月 2 日(火)～ 3 日(水)	NPO 支援センター初任者研修会 2025	1 名
	令和 8 年 2 月 5 日(木)	ともに市民社会をつくる学びのコミュニティ(ともしび):政策の提言編 アドボカシーを学ぼう！	1 名
	令和 8 年 2 月 12 日(木)		
令和 8 年 2 月 19 日(木)			
一般社団法人 PLAY ART!せんだい	令和 7 年 8 月 22 日(金)	文化芸術アウトリーチコーディネーター育成研修	1 名

■内部研修

研修内容		日程
認定 NPO 法人申請・更新(伝達研修)		令和 7 年 4 月 9 日(水)
印刷機・コピー機の料金回収		令和 7 年 4 月 9 日(水)
窓口料金還付手順		令和 7 年 7 月 23 日(水)
		令和 7 年 8 月 27 日(水)
市民活動シアター申込受付		令和 7 年 8 月 13 日(水)
後納研修(請求書発行)		令和 7 年 10 月 8 日(水)
相談研修		令和 7 年 8 月 13 日(水)
相談	ボランティアしたい	令和 7 年 5 月 14 日(水)
ロールプレイ	イベントをやりたい	令和 7 年 9 月 24 日(水)
	規約・定款をつくりたい	令和 7 年 11 月 12 日(水)
	イベント参加者を増やしたい	令和 8 年 1 月 14 日(水)
	ボランティアにお金を出す(有償・交通費支給)	令和 8 年 2 月 12 日(木)
新システム 操作	入力実践	令和 7 年 6 月 11 日(水)
	主要な対応・操作	令和 7 年 6 月 25 日(水)
	マニュアル・フォーメーション確認	令和 7 年 7 月 9 日(水)
	使用変更	令和 7 年 9 月 10 日(水)
	キャンセル処理	令和 7 年 12 月 10 日(水)
	市民活動シアター料金表示変更に伴う操作と申込 受付対応	令和 8 年 1 月 28 日(水)
「協働」研修		令和 8 年 1 月 14 日(水)
不当要求対応(伝達研修)		令和 8 年 2 月 25 日(水)
無線機の使い方		令和 8 年 2 月 25 日(水)

5-3. 視察・見学対応

令和 7 年度の視察・見学による来訪者の件数は 60 件(前年度比 13 件減)。来訪者数は 202 人だった。(集計一覧:資料 13「視察・見学対応」参照)

来訪者の属性は、その他(学生・議員・公益法人)が 40 件で最多で、その中でも建築に興味があつて来館された方が多かった。

来訪者属性(件数)	R6 年度	R7 年度
市民活動団体	4	5
行政関係者	1	2
企業関係者	5	4
その他(学生・議員・公益法人)	59	40
マスコミ取材	4	9
合計	73	60

5-4.防災避難訓練

消防法に基づく防災避難訓練を実施した。

日程	実施時間	参加	訓練種別
令和7年10月22日(水)	14:00~15:30	13名	消火訓練/通報訓練 避難訓練/設備操作訓練
令和8年3月25日(水)	14:30~15:00	12名	通報訓練/設備操作訓練

訓練の目的

[不特定多数が利用する施設としての火災・地震発生時の避難誘導手順を共有する]

- 施設利用者へのパニック防止を目的とした情報共有の実施確認(館内放送)
- 館内災害対応設備の確認(無線機の使用)

訓練の内容

- 防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認
- 想定災害による避難誘導訓練(無線機使用)
- 通報訓練(内線にて防火管理者が通報を受け取る)

消防計画に定めた年2回の消防訓練は、令和7年10月22日(水)及び、令和8年3月25日(水)に、「防災設備・備品の種類や設置場所、使用方法の確認」「避難誘導訓練」を主な内容として行った。なお10月の訓練では、新入職員も複数含まれていることから、一度原点に立ち返って館内防火設備の特性や使い方をあらためて学習する訓練とした。

また3月の訓練では、誘導スタッフの館内連絡網を更に充実させるため、デジタル簡易無線機4台を用いて、より実践的な通報・誘導訓練とした。

いずれの回においても、中央監視システムの動作確認・館内放送・消火栓(消火器)の設置状況や操作方法について再確認している。

訓練では日常業務であまり使われない無線機を使用して緊急時に確実に情報をやり取りするための工夫を各自で考え、いざという時に迷わないよう意識しながら臨み、訓練後は全員で振り返りを実施した。

5-5. 施設の維持管理

令和7年度は大きな修繕工事は行わなかったが、主に施設全体の老朽化に伴う各種不具合に対し、補修等の対応を行った。

発生事象	場所	原因	対応月日・対応内容
トイレ便座破損	3階 女子トイレ	経年劣化	令和7年4月10日(木) 部品交換
	地下1階 市民活動シアター 女子トイレ		令和7年11月12日(水) 部品交換
テラス浸水	5階 テラス(喫煙所)	排水溝詰まり	令和7年4月14日(月) 清掃作業
有線LAN不通	4階 全貸室	アクセスポイント機器の 故障(経年劣化)	令和7年12月19日(金) アクセスポイント機器交換
火災報知器 赤色灯不点灯	7階	電球の球切れ	令和7年1月6日(火) 電球交換
内線電話不通	3階 研修室1	床下ケーブル断線	令和8年1月27日(火) 床下配線交換
警備アラーム 誤発報	地下1階 市民活動シアター	機器劣化	令和8年3月11日(水) センサー交換
ドアクロージャー 片側外れる	4階給湯室入口	経年劣化	令和8年3月17日(火) ドアクロージャー一時撤去、 交換部品手配中

6. 事業報告

事業 1	情報収集提供事業	P.40
事業 2a	市民活動相談事業	P.46
事業 2b	協働相談事業	P.51
事業 3a	人材育成事業	P.57
事業 3b	協働に関する理解促進及び機会創出事業	P.72
事業 3c	調査研究事業	P.80

個別事業報告書

【事業 1】情報収集提供事業	
事業目的	<p>① 多彩な市民活動や、市民が気づいた地域の課題、協働による課題解決の取組み等について、活発に情報受発信される環境を整える。</p> <p>② 市民活動と協働について広く市民へ伝える。</p>
成果目標	市民が多様な場所で市民活動や協働の情報と出会うことができる環境をつくる。
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブログの訪問者数(ユニークユーザー)年間 40,000 件以上。 ・ ブログ投稿数 250 件以上。 ・ 事業者の社会貢献活動事例や協働事例の紹介 年間 5 件以上。
成果	<p>1. 市民活動、協働等に関する情報の収集及び提供</p> <p>(1)マチノワひろば 展示数:12 企画 内、自己使用 2 企画</p> <p>(2)マチノワギャラリー 展示数:14 企画 内、自己使用 2 企画</p> <p>(3)チラシラック P.15「3-1.情報掲示等利用」参照。</p> <p>(4)情報サロン P.15「3-1.情報掲示等利用」、P.15「3-2.団体情報の蓄積」参照。</p> <p>2. 市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出 P.17「3-4.図書の貸出」参照。</p> <p>3. 市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布 P.15「3-1.情報掲示等利用」参照。</p> <p>4. 機関誌『ぱれっと』の発行 P.18「3-5. 情報発信 (1)サポートセンター通信『ぱれっと』の発行」参照。</p> <p>5. 仙台市市民活動サポートセンターメールマガジンの発行 P.21「3-5.情報発信 (6)NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用」参照。</p> <p>6. サポートセンターのホームページの管理及び更新 P.19「3-5.情報発信 (2)ホームページの管理」参照。</p>

	<p>7. その他情報収集提供業務全般</p> <p>(1) ブログ P.20「3-5.情報発信 (3) ブログの管理」参照。</p> <p>(2) SNS(X) P.21「3-5.情報発信 (4) X(エックス)の管理」参照。</p> <p>(3) 動画コンテンツ P.21「3-5.情報発信 (5) YouTube チャンネル『サポセンちゃんねる』の管理」参照。</p>
課題	<p>6. サポートセンターのホームページの管理及び更新</p> <p>成果目標に対し、特に抽出すべき課題は、スマートフォンでのホームページ閲覧という新たな利用者ニーズへの対応である。スマートフォンでの閲覧を前提としたホームページ設計の見直しを図り、利用者が必要な支援メニューにより円滑にたどり着けるようにするための抜本的なリニューアルが必要である。</p>

実施概要	1. 市民活動、協働等に関する情報の収集及び提供		
	(1)マチノワひろば		
	期間	企画	設置者・主催者
	令和7年4月1日(火) ～4月30日(水)	ZINE でチャレンジ！仙 台・宮城の魅力発信	自主企画
	5月1日(木) ～5月30日(金)	5月30日は「ごみゼロ の日」	NPO 法人 green bird 仙台チーム
	6月1日(日) ～6月28日(土)	星のソムリエ仙台	NPO 法人星のソムリエ 機構
	7月6日(日) ～7月27日(日)	ぶどうの木写真展「和」 (なごみ):すい臓がんサ バイバーの私たち 病気 だけど病人じゃない	すい臓がん患者と家族 のおしゃべりサロン ぶどうの木
	8月1日(金) ～8月30日(土)	持続可能な消費生活展 ～安心・安全を守る暮ら しの知恵を学ぼう！	公益社団法人日本消費 生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員 協会東北支部
	9月1日(月) ～9月30日(火)	荒廃した山林を「食べら れる森」へと変える 「Agroforestry Lab」 —環境問題×貧困問題 —	Fridays For Future Sendai
	10月1日(水) ～10月31日(金)	活動報告パネル展	宮城野原案内人の会
	11月1日(土) ～12月2日(火)	12月1日は世界エイズ デー	やろっこ
	12月6日(土) ～12月28日(日)	第2回「縁 and ZINE (エンジン)」	ZINE の良さを伝え隊
	令和8年1月7日(水) ～1月31日(土)	活動報告パネル展	宮城野原案内人の会
	2月1日(日) ～2月25日(水)	げいのうのえんがわ(仙 台げいのう未来ミーテ ィング キックオフ関連 企画)	自主企画
3月2日(月) ～3月31日(火)	TGU 情報リテラシー教 室の活動紹介	TGU 情報リテラシー 教室	

(2)マチノワギャラリー		
期間	企画	設置者・主催者
令和7年4月1日(火) ～4月30日(水)	大人も子どももみんな で学ぼう 防災教室	災強のすけっと
5月1日(木) ～5月17日(土)	気になる「まちあるき」 展～サポセンアーカイブ 資料から～配慮	自主企画
5月19日(月) ～5月30日(金)	知っていますか？難病 のこと	NPO 法人宮城県患者・ 家族団体連絡協議会
6月3日(火) ～6月29日(日)	あおぞらの輪	あおぞらの輪
7月1日(火) ～7月28日(月)	グリーフ・フェス～大切 な方とお別れした時に 思い出してほしいこと ～	東北グリーフサポート
8月1日(金) ～8月31日(日)	仙台自主夜間中学「学 ぶことは生きること」	仙台自主夜間中学
9月1日(月) ～9月30日(火)	荒廃した山林を「食べら れる森」へと変える 「Agroforestry Lab」 —環境問題×貧困問題 —	Fridays For Future Sendai
10月2日(木) ～10月31日(金)	居場所ギャラリー「ペル ティカ」	一般社団法人東北 駆け込み寺
11月1日(土) ～11月30日(日)	過労死ゼロの活動につ いて	過労死ゼロ
12月5日(金)～ 令和8年1月6日(火)	伝統「仙台門松」を知ろ う	仙台門松・みやぎの 発信隊
1月7日(水) ～1月31日(土)	活動報告パネル展	宮城野原案内人の会
2月1日(日) ～2月25日(水)	げいのうのえんがわ(仙 台げいのう未来ミーテ ィング キックオフ関連 企画)	自主企画
2月27日(金) ～3月1日(日)	「コウノトリが飛ぶ島国 で、この部屋で」それぞ れの「選択」	OrgofA
3月2日(月) ～3月31日(火)	TGU 情報リテラシー教 室の活動紹介	TGU 情報リテラシー 教室

(3)チラシラック

P.15「3-1.情報掲示等利用」参照。

(4)情報サロン

P.15「3-1.情報掲示等利用」、P.15「3-2.団体情報の蓄積」参照。

2. 市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出

P.17「3-4.図書の貸出」参照。

3. 市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布

P.15「3-1.情報掲示等利用」参照

・市民活動イベント掲示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(骨プロ)～
連携施設間会議

日 時:令和 7 年 5 月 21 日(水)14:30～15:30

会 場:サポートセンター4 階 研修室 5

出席者:8 施設・所管部署から計 11 名

内 容:骨プロ主旨、チラシ受付の流れ・ルール説明、連携施設同士の情報交換

4. 機関誌『ぱれっと』の発行

【発行】毎月 1 日～5 日の間 月／3,000 部

【仕様】A4 両面フルカラー(計 8 回)、A3 両面フルカラー(計 4 回)

【構成】下記、11 コーナーから紙面編集に合わせて毎号選択し掲載した。

ワクワクビト／ちまたのコラボ(協働)／市民活動突撃レポート／
今、私にできること／お役立ち本／コトハジメ／活動に+(プラス)／
募集して☑／このたびカタチになりまして／私のあしあと／
気になる○○

【工程】1 号あたり、編集会議から納品まで約1ヶ月半

3 号分の工程を同時進行

5. 仙台市市民活動サポートセンターメールマガジンの発行

P.21「3-5.情報発信 (6)NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用」
参照。

6. サポートセンターのホームページの管理及び更新

P.19「3-5.情報発信 (2)ホームページの管理」参照。

7. その他情報収集提供業務全般**(1)ブログ**

P.20「3-5.情報発信 (3)ブログの管理」参照。

	<p>(2)SNS(X) P.21「3-5.情報発信 (4)X(エックス)の管理」参照。</p> <p>(3)動画コンテンツ P.21「3-5.情報発信 (5)YouTube チャンネル『サポセンちゃんねる』の管理」参照。</p>
添付	<p><input type="checkbox"/>広報物 <input type="checkbox"/>配布資料 <input type="checkbox"/>アンケート結果 <input checked="" type="checkbox"/>その他(マチノワひろば・ギャラリー 展示感想シート、ぱれっと、ぱれっと読者の声)</p>

個別事業報告書

【事業 2a】相談事業:市民活動全般に関する相談対応及びアウトリーチによる支援	
事業目的	サポートセンター内外で多様な主体の相談に応じることのできる環境を整える。
成果目標	地域の機関や団体と連携し、市民活動団体等が地域で活動しやすい環境をつくる。
実施目標	年間相談件数 900 件、活動相談件数 400 件。
成果	<p>1.市民活動全般に関する相談対応(サポートセンター内での相談対応)</p> <p>令和 7 年度サポートセンターに持ち込まれた、市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応(対面及び電話の他、予約制でオンラインでの相談も受け付ける)は、年間相談件数 1,282 件、うち活動相談件数が 441 件と年間目標件数を達成することができた。 (P.22~「4.相談・問合せ対応」参照。)</p> <p>○「活動応援室」</p> <p>令和 7 年 6 月から毎月第 3 水曜日に、サポートセンターでの市民活動の相談窓口の新たな企画として「活動応援室」を開催した。サポートセンターの相談機能を認知してもらうきっかけとして実施し、サポートセンターの相談機能をはじめ活用したという人を少しずつ増やしている。令和 7 年度は 8 件の相談に応じた。</p> <p>2.アウトリーチ相談</p> <p>(1)アシ☆スタ企業・創業なんでも相談 DAY</p> <p>公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」主催の「起業・創業なんでも相談 DAY」に出張相談員として参画した。年間を通して 8 件の相談に対応した。</p> <p>(2)その他</p> <p>サポートセンタースタッフが、他機関や地域の団体へ出向き、関係性構築と相談対応・コーディネートを行ったアウトリーチ相談は、年間 24 回程度を想定していた。結果として、令和 7 年度はアウトリーチを 165 件、アウトリーチに伴う活動相談を 97 件実施した。</p> <p>3.専門家・実践者との連携</p> <p>特定の専門的な知識や技能を必要とする相談等のサポートセンター単独では対応しきれない相談について、市民活動支援の専門家、各分野の専門家、士業を生業とする専門家、市民活動やまちづくりの実践者に、専門相談員・アドバイザーとして協力を仰いだ。年間目標件数 12 件に対して 11 件実施した。</p>

課題	<p>1.市民活動全般に関する相談対応(サポートセンター内での相談対応) サポートセンターのロッカー・貸室利用の団体は施設利用自体が目的のため、相談の機能を利用していない。要因としては、サポートセンターの相談機能があまり知られていないことが考えられる(サポートセンター利用団体 1,499 団体中、相談利用団体は 995 件)。サポートセンター1 階で「活動応援室」を定期的実施することで相談機能をアピールし認知を広げる。</p> <p>2.アウトリーチ相談 アウトリーチ相談後に、団体の組織運営や活動等の進捗を確認して、有益と思われる情報を提供する等のサポートセンターからのフォローアップが追いついていない。要因としては、新規のアウトリーチ相談を行うことに注力していたことが考えられる。そのため、サポートセンタースタッフのスケジュール調整等、計画的にフォローしていく。</p> <p>3.専門家・実践者との連携 地域機関と同様に、地域で市民活動団体等のノウハウを活かしてもらうには、協力を仰ぐ機会を増やす必要がある。市民活動やまちづくりの実践者には専門相談員・アドバイザーの役割を果たすことができる人が多く存在するため、人材を発掘する視点で日頃からコミュニケーションを取る必要がある。</p>
実施概要	<p>1.市民活動全般に関する相談対応(サポートセンター内での相談対応) 市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談に対応した。 (P.22～「4.相談・問合せ対応」参照。)</p> <p>2.アウトリーチ相談 アウトリーチに伴う活動相談 97 件から、1 回のアウトリーチで複数の相談があったものを中心に一部を抜粋して記載する。表記は、日付、会場、主催、行事名(ない場合は省略)、相談件数の順とする。</p> <p>① 4月17日(木) 東北学院大学五橋キャンパス 社会福祉法人仙台市社会福祉協議会仙台市ボランティアセンター、キャンパス「宮城ボラ・インカレ 2025」12 件</p> <p>② 4月22日(火) plugin lab 東北大学 社会福祉法人仙台市社会福祉協議会仙台市ボランティアセンター、キャンパス「宮城ボラ・インカレ 2025」6 件</p> <p>③ 5月19日(月) 特定非営利活動法人地域生活支援オレンジねっと事務局 特定非営利活動法人地域生活支援オレンジねっと 1 件</p>

	<p>④ 5月25日(日) 長町地区 一般社団法人ながまちマチキチ 「たっここ市×ナガマチトレジャーウォーク」 2件</p> <p>⑤ 6月2日(月) IKEA 仙台 イケア・ジャパン株式会社 1件</p> <p>⑥ 6月22日(日) サンモール一番町アーケード 尚綱学院大学「SDGs マルシェ」5件</p> <p>⑦ 7月8日(火) 柳生市民センター 社会福祉法人中田西部地区社会福祉協議会「講座打ち合わせ」1件</p> <p>⑧ 7月25日(金) サポートセンター 仙台市 仙台まちづくり若者ラボ 2025「ワークショップ」1件</p> <p>⑨ 8月29日(金) 特定非営利活動法人地域生活支援オレンジねっと事務局 南光台ふれあいまちづくり実行委員会「定例 MTG」1件</p> <p>⑩ 9月11日(木) 旭ヶ丘市民センター 一般社団法人ながまちマチキチ「ダイノハラプロジェクト」1件</p> <p>⑪ 9月27日(土) 若林区中央市民センター 若林区中央市民センター 令和7年度若林区中央市民センター「学習発表 フェスタ」2件</p> <p>⑫ 10月18日(土) 株式会社 manaby 学生有志「CROSS UNIVERSITY MEETUP」1件</p> <p>⑬ 10月19日(日) 広場公園、杜の広場公園及びその周辺 太白区民まつり推進協議会、太白区「太白区民まつり 2025—想いつなく 未来のたいはく—」2件</p> <p>⑭ 11月6日(木) 環境局 杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)「分科会会議」1件</p> <p>⑮ 11月15日(土) サポートセンター 仙台若者チャレンジアワード実行委員会 仙台若者チャレンジアワード 2025 「参加団体交流会」3件</p>
--	---

	<p>⑯ 11月19日(水) 仙台こども財団事務局 公益財団法人仙台こども財団「第5回こども財団サロン×サポセン「出前講座」4件</p> <p>⑰ 12月7日(日) せんだいメディアテーク 仙台若者チャレンジアワード実行委員会 仙台若者チャレンジアワード 2025「最終審査会」1件</p> <p>⑱ 12月15日(月) 泉区役所 泉区まちづくり推進課「R8年度泉区まちづくり活動助成事業募集説明会「伝わる申請書類の書き方」・相談会」4件</p> <p>⑲ 1月18日(日) 仙台市生涯学習支援センター 仙台市生涯学習支援センター「令和7年度子ども・若者・大人事業成果報告会」1件</p> <p>⑳ 1月23日(金) 泉区役所 泉区まちづくり推進課「令和8年度泉区まちづくり活動助成事業「事前相談会」」2件</p> <p>㉑ 2月8日(日) 仙台三桜高校 つながれ高校演劇ステサポ!SENDAI 1件</p> <p>㉒ 2月24日(火) サポートセンター 市民局市民協働推進課「ユースチャレンジ!コラボプロジェクト(若者版市民協働事業提案制度) 令和8年度事前説明会」1件</p> <p>㉓ 3月17日(火) 環境局 杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)「定例会」1件</p>
--	--

	<p>3. 専門家・実践者との連携</p> <p>特定の専門的な知識や技能を必要とする相談等のサポートセンター単独では対応しきれない相談について、市民活動支援の専門家、各分野の専門家、土業を生業とする専門家、市民活動やまちづくりの実践者に、専門相談員・アドバイザーとして協力を仰いだ。連携した各分野の専門家・実践者 11 件を記載する。</p> <p>① 4月28日(月)一般社団法人 ICT たらこや ② 6月19日(木)一般社団法人 SC.FIELD ③ 7月15日(火)特定非営利活動法人都市デザインワークス ④ 9月12日(金)公認会計士・税理士伊藤由紀さん ⑤ 11月21日(金)宮城大学事業構想学群 小沢晴司さん ⑥ 11月24日(月)学生団体 pono ⑦ 12月10日(水)東北大学大学院文学研究科 青木聡子さん ⑧ 12月17日(水)行政書士 西淑子さん ⑨ 12月25日(木)特定非営利活動法人都市デザインワークス ⑩ 12月26日(金)NPO 法人障がい者の暮らしとお金の相談室 ⑪ 2月6日(金)司法書士 中山夏紀さん</p>
添付	<input type="checkbox"/> 広報物 <input type="checkbox"/> 配布資料 <input type="checkbox"/> アンケート結果 <input type="checkbox"/> その他()

個別事業報告書

【事業 2b】相談事業：協働を進めるために必要なコーディネート・多様な主体間のネットワーク形成支援	
事業目的	多様な主体による協働・ネットワークを支える環境をサポートセンター内外で整える
成果目標	地域に多様な主体間の協働や、多様な主体が参画するネットワークが多数存在している。
実施目標	市民活動を支えるコーディネート人材の発掘と育成を進め、令和 11 年度(2029 年度)末までに、200 人以上のネットワークをつくる。
成果	<p>1.協働相談・協働コーディネート</p> <p>(1)市民協働事業提案制度</p> <p>①令和 8 年度実施事業の事前相談 12 件(オンラインでの相談 2 件)</p> <p>②事前相談の追加相談 1 件</p> <p>(2)地域づくりパートナープロジェクト推進助成制度</p> <p>①令和 8 年度実施事業の事前相談 20 件(オンラインでの相談 5 件)</p> <p>②事前相談前相談 1 件、事前相談の追加相談 2 件</p> <p>(3)連携・協働に関する相談対応</p> <p>市民活動団体同士の連携・協働や多様な主体間の連携・協働に関する相談対応は無かった。</p> <p>(4)連携・協働に関する仲介・コーディネート</p> <p>必要に応じて双方の組織の状況等を見極めながら仲介・コーディネートを 1 件実施した。</p> <p>2.協働実践者の把握と活用</p> <p>市内で実施されている協働まちづくり活動の情報収集・現場訪問は 12 回程度想定のところ、36 件に訪問した。</p> <p>3.他機関・ネットワーク等との連携によるネットワーク形成支援</p> <p>相談対応等に備え、既存のネットワークや専門家・実践者等と日頃より情報交換を実施したのは、66 件であった。</p>
課題	<p>1.協働相談・協働コーディネート</p> <p>令和 7 年度は、上記(1)及び(2)の令和 8 年度実施事業の事前相談の他、事前相談前相談や事前相談の追加相談等、関連する相談がほとんどを占めた。</p> <p>一方、上記(3)の市民活動団体同士の連携・協働や多様な主体間の連携・協働に関する相談対応は無く、同様に上記(4)の必要に応じた仲介・コーディネートも 1 件であった。</p>

	<p>2.協働実践者の把握と活用</p> <p>協働実践者を把握するために市民活動団体等の現場訪問の他、協働実践者の活用として事業協力を求められる機会が少しずつではあるが増えた。一方で、市民活動団体の活動支援のために協働実践者を活用する機会が少ないこともあり、協働自体の認知や有効性の理解を促すため、協働実践者のノウハウを伝える機会を増やす必要がある。</p> <p>3.他機関・ネットワーク等との連携によるネットワーク形成支援</p> <p>顔の見える関係性をつくるには継続的に他機関・ネットワーク等へのアウトリーチが必要である。また、サポートセンターだからできることをその関係性の中で積極的に伝え、関係性を強化する必要がある。</p>
実施概要	<p>1.協働相談・協働コーディネート</p> <p>(1)市民協働事業提案制度の事前相談</p> <p>① 令和 8 年度実施事業の事前相談(令和 7 年 6 月～7 月) 会場:サポートセンター及びオンライン</p> <p>② 事前相談の追加相談 1 件 対面</p> <p>(2)地域づくりパートナープロジェクト推進助成制度の事前相談対応</p> <p>① 令和 8 年度実施事業の事前相談(令和 7 年 9 月～10 月) 会場:サポートセンター及びオンライン</p> <p>② 事前相談前相談 1 件、事前相談の追加相談 2 件 いずれも対面</p> <p>(3)連携・協働に関する相談対応</p> <p>市民活動団体同士の連携・協働や多様な主体間の連携・協働に関する相談対応は無かった。</p> <p>(4)連携・協働に関する仲介・コーディネート</p> <p>双方の組織の状況等を見極めながら仲介・コーディネートとして仙台市防災環境都市推進室からの相談に対応した。</p> <p>2.協働実践者の把握と活用</p> <p>協働まちづくり活動の情報収集・現場訪問した 36 件から一部を抜粋して記載する。表記は、日付、会場、主催者・団体名、行事名(ない場合は省略)、相談件数の順とする。</p> <p>① 6 月 5 日(木) 日立システムズホール Keyaki no Mori 一般社団法人ながまちマチキチ 「プロジェクトダイノハラ」説明会</p>

- ② 7月8日(火) 秋保ヴィレッジ
特定非営利活動法人フードバンク仙台、なくら農園、株式会社お茶の井ヶ田
(秋保ヴィレッジ)
- ③ 9月15日(月・祝) 楽天モバイルパーク宮城
プラスクロス、市民スポーツボランティア SV2004 「センサリールーム」
- ④ 10月29日(水) 青葉の風テラス
社会福祉法人あいの実、仙台市 「ほのぴあリアル vol.2」
- ⑤ 11月15日(土) サポートセンター
仙台若者チャレンジアワード実行委員会 仙台若者チャレンジアワード 2025
「参加団体交流会」
- ⑥ 12月6日(土) 黒松集会所
NPO 法人災強のすけっと、黒松町内会 「防災アドベンチャー」ミーティング
- ⑦ 12月13日(土) サポートセンター
仙台まちづくり若者ラボ防災チーム 「ワークショップ」
- ⑧ 1月31日(土) 青葉の風テラス
仙台市 仙台まちづくり若者ラボ 2025「アクション報告会」
- ⑨ 2月24日(火) サポートセンター
仙台市市民協働推進課 ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版市民
協働事業提案制度)「令和8年度事前説明会」
- ⑩ 3月26日(木) 就労継続支援 B 型事業所「アスノバ」
株式会社未来企画、株式会社ユーメディア

3.他機関・ネットワーク等との連携によるネットワーク形成支援

相談対応等に備え、既存のネットワークや専門家・実践者等と日頃より情報交換した 66 件から一部を抜粋して記載する。表記は、日付、会場、主催者・団体名、行事名(ない場合は省略)、相談件数の順とする。

- ① 4月27日(日) シェルコム仙台
SENDAI・MIYAGI PARA-SPORTS NET 「車いすソフトボール
フロンティアリーグ宮城大会」
- ② 5月20日(火) 環境局
杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)

- ③ 5月21日(水) サポートセンター
サポートセンター他「市民活動イベント掲示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(骨プロ)連携施設間会議」
- ④ 5月22日(木) 仙台市産業振興事業団
せんだい創業支援ネットワーク「せんだい創業支援ネットワーク会合」
- ⑤ 6月6日(金) 環境局
仙台市「仙台市環境審議会」
- ⑥ 7月17日(木) ジーバーFOOD 長町
尚綱学院大学人文社会学群人文社会学類 渡邊ゼミながまちもりあげ隊
「ながまち会」
- ⑦ 8月18日(月) 柳生北集会所
中田西部地区社会福祉協議会「社協だより編集会議」
- ⑧ 8月19日(火) 泉区中央市民センター
まつりだよ!泉区中央!実行委員会「令和7年度第13回まつりだよ!
泉区中央!第1回実行委員会」
- ⑨ 9月16日(火) 仙台スポーツ&リゾート専門学校
仙台・スポーツ・サポーターズ・ネットワーク(SSSN)「定例会」
- ⑩ 9月27日(土) 若林区中央市民センター
若林区中央市民センター 令和7年度若林区中央市民センター「学習発表
フェスタ」
- ⑪ 9月27日(土) 青葉区中央市民センター
青葉区中央市民センター「令和7年度青葉区中央市民センターまつり
2025」
- ⑫ 10月4日(土) 宮城野区中央市民センター
宮城野区中央市民センターまつり M フェス実行委員会「令和7年度
第11回宮城野区中央市民センターまつり M フェス」
- ⑬ 10月19日(日) 広場公園、杜の広場公園及びその周辺
太白区民まつり推進協議会、太白区「太白区民まつり 2025—想いつなぐ
未来のたいはく—」

- ⑭ 11月19日(水) 仙台こども財団
公益財団法人仙台こども財団「第5回こども財団サロン×サポセン無料出前講座」
- ⑮ 11月20日(木) 東北大学川内北キャンパス
東北大学キャリア・社会連携支援センター ボランティア活動支援室、東北大学ボランティアサークル SCRUM「東北大学ボランティアフェア 2025 秋」
- ⑯ 12月3日(水) 仙台市社会福祉協議会
社会福祉法人仙台市社会福祉協議会仙台市ボランティアセンター「令和7年度第2回ボランティア・市民活動に関する情報交換会」
- ⑰ 1月12日(月・祝) 仙臺緑彩館
公益財団法人仙台市市民文化事業団「文化芸術を地域に生かす創造支援事業」活動報告会
- ⑱ 1月18日(日) 仙台市生涯学習支援センター
仙台市生涯学習支援センター「令和7年度子ども・若者・大人事業成果報告会」
- ⑲ 2月26日(木) 仙台市民図書館
仙台市民図書館 市民図書館広報研修「出前講座」
- ⑳ 3月4日(水) サポートセンター
株式会社 BLUESODA「青葉区中央市民センター若者事業インタビュー」
- ㉑ 3月5日(木) サポートセンター
お宮町まちづくり協議会
- ㉒ 3月10日(火) サポートセンター
ソウル市瑞草区役所&ソウル瑞草福祉ケア財団「視察」
- ㉓ 3月20日(金・祝) サポートセンター
日本社会関係学会「エクスカージョン」
- ㉔ 3月22日(日) エル・パーク仙台
公益財団法人仙台こども財団「令和7年度仙台こども財団助成事業こども提案プロジェクト助成活動発表会/こども・どこでも居場所づくり活動助成活動報告会」

	㊥ 3月28日(土) JOYPOLIS SPORTS イオン仙台中山店 SENDAI・MIYAGI PARA-SPORTS NET 「みんなのパラスポーツ 体験会」
添付	<input type="checkbox"/> 広報物 <input type="checkbox"/> 配布資料 <input type="checkbox"/> アンケート結果 <input type="checkbox"/> その他()

個別事業報告書

【事業 3a】人材育成事業	
事業目的	市民協働の前提となる「自立」した市民性を、市民一人ひとりが発揮しやすくなる環境を整える。
成果目標	ボランティアやプロボノなど自分のことから課題解決に関わる市民が増加する。
実施目標	若者の人材育成に資する事業を、関係機関等とも連携しながら、毎年度2事業以上実施。
成果	<p>1.地域への関わりしるを増やす</p> <p>(1)ボランティア体験会「ちょっと。ボランティア」</p> <p>市民活動に関心がある市民でも、いきなりメンバーとして活動していくのはハードルが高いとの声に、手軽にボランティアを体験できるイベントを実施して、活動の現場を見てもらう機会を3回設けた。その中では、サポートセンターから市民活動の探し方等の情報を提供し、はじめの一步をサポートした。参加者は、3回の実施で合わせて45名、うち28名がボランティアの経験がなく、市民活動のはじめの一步を支援することができた。令和7年度は、受入団体の希望に応じて、ボランティア体験とは別の日に活動について参加者に説明できる時間を設けたため、ボランティア受け入れのハードルを下げることもできた。</p> <p>①NPO 法人フードバンク仙台</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入団体が自分たちの活動について説明する時間を、ボランティア体験の本番とは別の日に設けたことで、体験当日に参加者と受入団体の双方が活動の目的意識等を十分に共有した状態で活動できた。 ・フードバンク活動に興味がある方やボランティアをやってみたいと考えている方等、計9名が参加した。 ・平均満足度は5段階評価で、4.2点だった。 ・アンケートでは「貧困をめぐる社会情勢を知ることができ良い勉強になった」「今後も役に立てる機会があれば参加したい」等の感想が寄せられた。 <p>②ぐるぐるながまち(株式会社ユカリエ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に興味がある市民や社会教育士実習の学生等で、計6名が参加した。 ・平均満足度は5段階評価で5.0点だった。 ・アンケートでは「ごみ拾いをしながら、まちなかを歩くことができ楽しかった」「地域の皆さんや、まちを歩きかう方々との交流も楽しみながらボランティア活動ができたことが非常によかった」等の感想が寄せられた。 ・参加者が体験終了後、長町地区で行われている社会実験を見学したり、団体がぐるぐるながまちの参加者にプレゼントしている商品券で、地域のお店での買い物をしたりする等、地域を知るきっかけとなった。

③仙台 JOCS(公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会)

- ・切手整理作業のボランティア体験に合わせて、全国組織の JOCS(公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会)の活動を紹介する映像の視聴や団体が製造しているチャイセットの販売等を行い、多様な活動の入り口を提示することができた。
- ・もともと切手を集めていた方や社会とのつながりが欲しい方等、計 30 名が参加した。
- ・平均満足度は 5 段階評価で 4.3 点だった。
- ・アンケートでは「切手を切るというちょっとした事でも、役に立っていると思えて良かった」「JOCS の団体の活動内容も映像等を通じてわかりやすく学べて、ひとりひとりの小さな善意が現地の方々を勇気づける活動になることを知ってうれしかった」といった感想が寄せられた。
- ・参加者の中には、「仙台 JOCS の「きってきっぺ」に継続的に参加したい」と複数名から申し出があり、ボランティア活動を始めるきっかけを作ることができた。

(2)いづいっちゃんねる上映会

地域や社会のために何かしたいと思いをもち市民活動関心層が、社会課題や市民活動に触れられる機会として、「いづいっちゃんねる」の上映会を実施した。参加者同士の意見交換を通じて、社会や地域の課題への理解を深める機会を提供できた。

〇いづいっちゃんねる上映会「皆で話そう。『心地よいつながり』のこと」

- ・社会教育士実習の学生や自らもコミュニティの運営に関わっている方等、計 7 名が参加した。
- ・平均満足度は 5 段階評価で 4.3 点だった。
- ・アンケートでは「自分の活動でもゆる～く色々な人とつながるように、今後の方針を考えたい」「参加者同士で感想を共有できたことがよかった」といった感想が寄せられた。
- ・参加者の中から、「いづいっちゃんねる」で取り扱った NPO 法人スロコミの活動を参考にして、自分たちの活動に活かしたい、という声もあり、地域課題への理解を深めることができた。

(3)若者の人材育成に資する事業への協力

若者の人材育成に資する事業への協力として、仙台市が主催する次の 3 事業に協力した(以下①②④)。また、仙台白百合女子大学・東北大学と連携し、社会教育士実習の中で、大学生及び大学院生に市民活動を知ってもらおうプログラムを作成し、実施した(以下③)。

①仙台まちづくり若者ラボ 2025

- ・第 2 回、第 3 回、第 4 回のワークショップの会場を提供した他、各チームの打ち合わせ、アクションの会場を提供した。
- ・アクションプランの発表に対して、センター長から助言した。
- ・ワークショップの際に、各チームのアクションについて相談対応を行った。

②仙台若者チャレンジアワード 2025

- ・サポートセンターのブログや団体への声掛けで、参加募集の広報協力を行った。
- ・一次審査会と応募団体交流会の実施のための会場を提供した。
- ・応募団体による交流会にて、1 団体からアウトリーチ型の助成金講座の実施希望があり、講座実施につながった。他、1 団体の活動をサポートセンター機関紙「ぱれっと」で掲載、情報発信での支援につながった。

③社会教育士実習受け入れ

- ・市民活動団体の活動現場を訪問取材し、執筆した記事をブログで公開するプログラムを取り入れ、情報発信を通じて市民活動に触れる機会をつくった。また、ボランティア体験にも参加してもらい、実際に市民活動に参加する機会を提供した。

④ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度)

- ・センター長が、令和 7 年度採択事業検討会の審査員として協力した。
- ・令和 8 年2月に開催された令和 8 年度の事前説明会及び同年3月に開催された令和7年度事業成果報告会に会場を提供した。

(4)コトハジメ塾

①7月26日開催

- ・ボランティアに関心のある市民等7名が参加した。
- ・平均満足度は5段階評価で4.6点だった。
- ・参加者からは「いろんな活動がある事がわかり、参考になった」「今月末で退職の為、今からでも何か参加できることを見つけないか」といった感想が寄せられた。
- ・講座受講後に参加者の個別相談に対応した。

②9月9日開催

- ・社会教育士実習の学生やボランティアに関心のある市民等6名が参加した。
- ・平均満足度は5段階評価5.0点だった。
- ・参加者からは「サポートセンターの活動支援内容が分かり、支援・相談の窓口として心強く思った」「サポートセンターの機能を知れたので今後の活動に役立てたい」といった感想が寄せられた。
- ・講座受講後に参加者の個別相談に対応した。

③11月30日開催

- ・音楽系の市民活動者 1 名が参加した。アンケートは記入なし。
- ・講座受講後に参加者の個別相談に対応した。
- ・日曜日午前の開催は参加しにくいことがわかった。

④1月30日開催

- ・ボランティアに関心のある市民等 4 名が参加した。
- ・平均満足度は5段階評価で 4.8 点だった。
- ・参加者からは「これから情報交換をしながらやりたい活動を探したい」「施設が素晴らしい」といった感想が寄せられた。
- ・講座受講後に参加者の個別相談に対応した。

(5)クラウドファンディング講座

- ・NPO の資金調達担当者等、28 名が参加した。
- ・平均満足度は5段階評価で 4.4 点、平均理解度は5段階評価で 4.1 点であり、満足度、理解度ともに高い評価を得た。
- ・参加者からは「クラウドファンディングの考え方や仕組みについてよく理解できた」「具体的な事例をよい面も悪い面も伺うことができよかった」「団体に持ち帰って仕組みや方法を考える素材を学べたので良かった」といった感想が寄せられ、クラウドファンディングへの理解を深め、参加者が資金調達を考える際の判断材料を増やすことができた。
- ・後日、参加者の資金調達を含む事業実施に関する相談に対応した。
- ・講座内容を撮影した動画3本を、サポートセンター公式 YouTube チャンネル「サポセンちゃんねる」にて公開。当日参加できなかった人も、動画視聴を通じてクラウドファンディングへの理解を深められるような機会をつくった。令和 7 年度の動画再生回数は、のべ 150 回(令和 8 年 3 月末時点)であった。

2. アウトリーチ型の活動力強化(出前講座)

- ・アウトリーチ相談や他機関との連携を通じて、通年で11回の出前講座を実施した。段階に応じ相談対応につなぐことができた。
- ・泉区まちづくり推進課や若林区まちづくり推進課、仙台市生涯学習支援センター、仙台市建設局百年の杜推進課、仙台市民図書館、社会福祉法人仙台市社会福祉協議会、中田西部地区社会福祉協議会、川平地区社会福祉協議会、公益財団法人仙台こども財団から出前講座の依頼を受けた。講座を実施した後、講座の受け入れ機関がサポートセンターと協力して出前相談会を開催したり、サポートセンターの相談機能について団体へ情報提供したりする等、他機関、他施設との連携を強めることができた。

	<p>3. 専門家・実践者による個別支援のアウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市内の 1 地域にて、地域づくりの困りごとを聞き取った。サポートセンタースタッフとまちづくりの専門家が共に地域に赴き、課題の整理を行った。
課題	<p>1. 地域への関わりしるを増やす</p> <p>(1) ボランティア体験会「ちょっと。ボランティア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標に対する課題はない。 ・事業実施上の課題は、ボランティア体験の受け入れ団体が固定化していることである。今後、「団体の通常の活動に短時間参加してもらう」というボランティア体験の形に縛られず、様々な方法でボランティアに触れられる機会としての「ちょっと。ボランティア」を検討していく。 <p>(2) いづいっちゃんねる上映会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標に対する課題は、配信時と活動状況が変わっており、動画内で「これからできること」として紹介されている内容が、現在では実施していないことも多いため、ボランティアの初めの一歩を踏み出すためのコンテンツとして、「いづいっちゃんねる」の活用が難しくなりつつあることである。 <p>(3) 若者の人材育成に資する事業への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標に対する課題はない。 ・事業実施上の課題は、仙台まちづくり若者ラボ 2025 の各チームのアクションや、仙台若者チャレンジアワード 2025 の応募団体、ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度)の応募団体について、活動現場を訪問してフォローアップすることが、十分にできなかったことである。各事業の担当者と綿密に情報交換を行い、イベントの日程等を早めに知ることができるようにする必要がある。 <p>(4) コトハジメ塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標に対する課題としては、参加者へのフォローアップを十分に行えておらず、参加者のその後の行動の変化を確認できなかったことである。 ・事業実施上の課題は、対象としている「地域や社会のために何か始めてみたい人」に対する広報が、上手くいっていないことである。 ・また事業実施上の課題として、「何か始めてみたい人」に対して提供する情報が「NPO とは何か」の情報で適切なのか検討し、「寄付」「ボランティア」「立ち上げ」等具体的な市民活動への関わり方を示す内容へと、資料を作りなおす必要がある。

	<p>(5)クラウドファンディング講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングの初歩、実践する上での基本、やってみての体験談等、「はじめてのクラウドファンディング」というタイトルにしては、網羅的になりすぎた。 ・タイトルに比して難しいという感想もあり、クラウドファンディングのより初歩の部分についてのニーズが顕在化した。 <p>2. アウトリーチ型の活動力強化(出前講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設や支援機関からの出前講座依頼が多くを占め、市民活動団体の相談から出前講座につながるものが少なかった。 <p>3. 専門家・実践者による個別支援のアウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンター、専門家・実践者、相談者の 3 者による日程調整が必要であり、タイミングを合わせるのが困難で、回数を重ねて実施することができなかった。 												
<p>実施概要</p>	<p>1.地域への関わりしるを増やす</p> <p>(1)ボランティア体験会「ちょっと。ボランティア」</p> <p>「地域や社会のために何かしたい」という方を対象に、はじめの一步を後押しするボランティア体験イベントとして「ちょっと。ボランティア」を計 3 回開催した。</p> <p>①NPO 法人フードバンク仙台</p> <table border="1" data-bbox="416 1149 1390 1668"> <tr> <td>日時</td> <td>令和 7 年 6 月 28 日(土) 13:30~14:30(事前説明会) 6 月 30 日(月) 13:00~16:00(体験会)</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>体験会:フードバンク仙台事務所 事前説明会:仙台市市民活動サポートセンター 1 階 マチノワひろば</td> </tr> <tr> <td>受入団体</td> <td>NPO 法人フードバンク仙台</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>市民活動に関心はあるけれど一歩が踏み出せずにいる層</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>9 名(定員 10 名)</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>事前説明会では、団体の活動趣旨やボランティアとしての作業内容等を説明した。 体験会では、生活困窮者のための支援食糧の梱包や、お米の小分け作業等を体験した。</td> </tr> </table>	日時	令和 7 年 6 月 28 日(土) 13:30~14:30(事前説明会) 6 月 30 日(月) 13:00~16:00(体験会)	会場	体験会:フードバンク仙台事務所 事前説明会:仙台市市民活動サポートセンター 1 階 マチノワひろば	受入団体	NPO 法人フードバンク仙台	対象	市民活動に関心はあるけれど一歩が踏み出せずにいる層	参加者	9 名(定員 10 名)	内容	事前説明会では、団体の活動趣旨やボランティアとしての作業内容等を説明した。 体験会では、生活困窮者のための支援食糧の梱包や、お米の小分け作業等を体験した。
日時	令和 7 年 6 月 28 日(土) 13:30~14:30(事前説明会) 6 月 30 日(月) 13:00~16:00(体験会)												
会場	体験会:フードバンク仙台事務所 事前説明会:仙台市市民活動サポートセンター 1 階 マチノワひろば												
受入団体	NPO 法人フードバンク仙台												
対象	市民活動に関心はあるけれど一歩が踏み出せずにいる層												
参加者	9 名(定員 10 名)												
内容	事前説明会では、団体の活動趣旨やボランティアとしての作業内容等を説明した。 体験会では、生活困窮者のための支援食糧の梱包や、お米の小分け作業等を体験した。												

②ぐるぐるながまち(株式会社ユカリエ)

日時	令和7年9月20日(土) 9:30~11:30
会場	JR長町駅西口広場を含む長町地区
受入団体	ぐるぐるながまち(株式会社ユカリエ)
対象	市民活動に関心はあるけれど一歩が踏み出せずにいる層
参加者	6名(定員10名)
内容	長町地区でのごみ拾い活動のボランティアを体験した。

③仙台 JOCS(公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会)

日時	令和8年1月10日(土) 14:00~16:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
受入団体	仙台 JOCS(公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会)
対象	市民活動に関心はあるけれど一歩が踏み出せずにいる層
参加者	30名(定員30名)
内容	海外の医療保健協力に役立てるための、使用済み切手の整理作業のボランティアを体験した。

(2)いづいっちゃんねる上映会「皆で話そう。『心地よいつながり』のこと」

サポートセンターがこれまで配信してきた動画コンテンツ「いづいっちゃんねる」を活用し、動画視聴を通じて社会課題や自分に何ができるかを考え、活動のはじめの一歩を後押しする場として、「いづいっちゃんねる」の上映会を1回実施した。

日時	令和7年9月16日(火) 18:00~19:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4階 研修室5
視聴回	第15回配信「ゆる～いコミュニティづくりの現場から」 NPO 法人スロコミ
対象	何かしたいという思いを持つ市民活動関心層、すでに活動をしている人等
参加者	7名(定員10名)
内容	参加者とスタッフで過去の「いづいっちゃんねる」配信を視聴した後、内容について感想等を話し合う場をつくった。

(3)若者の人材育成に資する事業への協力**①仙台まちづくり若者ラボ 2025**

仙台市による、若者自らが「自分ごと」として関われる、まちづくりに関するテーマを設定してワークショップとフィールドワークによる実践的なプログラムとして開催されている。サポートセンターはワークショップ会場および各チームのアクションに会場提供を行った。各チームのメンターのミーティングにサポートセンタースタッフも参加し、アクションを進めていく上で参考となる情報を提供した。また、ワークショップの各回にアウトリーチし、各チームのメンバーに対して活動を進める上での助言や相談対応をした他、活動の現場を訪問した。

日程	内容
令和7年 6月29日(日)	ワークショップにアウトリーチ 若者ラボ参加者への相談対応
7月25日(金)	ワークショップ会場提供
8月8日(金)	メンターとのオンラインミーティングに参加、情報提供
9月5日(金)	ワークショップ会場提供 各チームのアクションプランの発表にフィードバック チームのアクションについての相談対応
11月28日(金)	ワークショップ会場提供
12月13日(土)	防災チームアクション会場提供、訪問
令和8年 1月31日(土)	アクション報告会 アウトリーチ

②仙台若者チャレンジアワード 2025

主催の仙台若者チャレンジアワード実行委員会により、若者や市民が活動を知るきっかけとなり、より若者が活躍できる仙台をつくり、持続可能な社会の実現を推進するための取り組みとして開催されている。サポートセンターは、応募者を募るための広報協力、一次審査会、応募団体交流会の会場提供での実施協力を行った。最終審査プレゼンテーションを訪問し、応募団体からの相談に対応した。

日程	内容
令和7年9月29日(月) 10月1日(水)	一次審査会、会場提供
11月15日(土)	応募団体交流会、会場提供。参加者へ相談対応
12月7日(日)	最終審査プレゼンテーション訪問、相談対応

③社会教育士実習受け入れ

仙台白百合女子大学、東北大学より申し出を受け、学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割をはたす専門人材である社会教育士の取得を目指す大学生および大学院生を、実習先として受け入れ、サポートセンターにて、以下のプログラムを行った。

日程	参加者	内容
令和7年 9月4日(木)	仙台白百合女子大学 (2名)	・市民活動取材事前説明会 ・ローカルメディアコンパス体験
9月9日(火)	仙台白百合女子大学 (1名) 東北大学(2名)	・サポートセンター施設説明 ・「コトハジメ塾」&館内ガイド
9月12日(金)	仙台白百合女子大学 (1名)	・お出かけ企画実施（市民活動団体を訪問し取材）
9月16日(火)	仙台白百合女子大学 (2名) 東北大学(2名)	・いついっちゃんねる上映会参加
9月18日(木)	仙台白百合女子大学 (2名) 東北大学(2人)	・せんだい・みやぎソーシャルハブセッション「こどもの成長を地域で支える」参加
9月20日(土)	仙台白百合女子大学 (2名) 東北大学(2名)	・「ちょっと。ボランティア」参加 (受入先:ぐるぐるながまち) ・実習全体の振り返り(東北大学のみ)
9月22日(月)	仙台白百合女子大学 (1名)	・お出かけ企画実施 (市民活動団体を訪問し取材)
9月29日(月)	仙台白百合女子大学 (2名)	・市民活動取材記事校正作業 ・実習全体の振り返り

④ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度)

センター長が、令和7年度採択事業検討会の審査員として協力した。また、サポートセンターとしては、令和8年2月に開催された令和8年度の事前説明会及び同年3月に開催された令和7年度事業成果報告会に会場提供での実施協力を行った。

日程	内容
令和7年5月19日(月) 5月22日(木)	令和7年度採択事業検討会
令和8年2月24日(火)	令和8年度事前説明会
3月10日(火)	令和7年度事業成果報告会

(4)コトハジメ塾

日時	令和7年7月26日(土) 10:00~11:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 1階 マチノワひろば
講師	サポートセンタースタッフ
対象	地域をより良くしたい、課題の解決を目指したアクションを起こしたい、ボランティア活動に興味がある人(市民活動に対して興味を持っている層)
参加者	7名(定員10名)
内容	非営利組織の基礎知識や関わり方についてのミニ講座を実施した。併せてサポートセンターの機能を知ってもらうための館内ツアーを行った。

日時	令和7年9月9日(火) 11:30~12:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4階 研修室5
講師	サポートセンタースタッフ
対象	地域をより良くしたい、課題の解決を目指したアクションを起こしたい、ボランティア活動に興味がある人(市民活動に対して興味を持っている層)
参加者	6名(定員10名)
内容	非営利組織の基礎知識や関わり方についてのミニ講座を実施した。併せてサポートセンターの機能を知ってもらうための館内ツアーを行った。

日時	令和7年11月30日(日) 10:00~11:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 1階 マチノワひろば
講師	サポートセンタースタッフ
対象	地域をより良くしたい、課題の解決を目指したアクションを起こしたい、ボランティア活動に興味がある人(市民活動に対して興味を持っている層)
参加者	1名(定員10名)
内容	非営利組織の基礎知識や関わり方についてのミニ講座を実施した。

日時	令和 8 年 1 月 30 日(金) 11:00~12:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 1 階 マチノワひろば
講師	サポートセンタースタッフ
対象	地域をより良くしたい、課題の解決を目指したアクションを起こしたい、ボランティア活動に興味がある人(市民活動に対して興味を持っている層)
参加者	4 名(定員 10 名)
内容	非営利組織の基礎知識や関わり方についてのミニ講座を実施した。併せてサポートセンターの機能を知ってもらうための館内ツアーを行った。

(5)クラウドファンディング講座「はじめてのクラウドファンディング」

市民活動の新しい資金調達として注目を集めているクラウドファンディングについて、クラウドファンディングのプラットフォーム企業のスタッフとクラウドファンディングの実施経験のある市民活動団体をゲストに迎え、具体的に考えることができる講座を実施した。また、講座内容を撮影した動画を後日公開した。

日時	令和 8 年 1 月 30 日(金) 18:30~21:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6 階 セミナーホール
講師	READYFOR 株式会社 井上桃子さん
ゲスト	2025 SENDAI 光のページェント実行委員会 高橋圭さん NPO 法人メディアージ 常務理事 漆田義孝さん
対象	資金調達に課題を感じている市民活動団体、クラウドファンディングに関心のある方等
参加者	28 名(定員 30 名)
内容	①クラウドファンディングの基礎・基本について学ぶ ②クラウドファンディング経験のある NPO 団体から経験談を聞く

講座内容を撮影した動画の 3 月末日時点の再生回数については下表の通り。

公開日	内容	再生回数	高評価
令和 8 年 3 月 17 日(火)	READYFOR 株式会社 井上桃子さん講座	68	1
	2025 SENDAI 光のページェント 実行委員会 高橋圭さん報告	40	1
	NPO 法人メディアージ 漆田義孝さん報告	42	1
合計		150	3

2. アウトリーチ型の活動力強化(出前講座)

活動の段階に応じた講座を市内各地の地域機関(市民センター、コミュニティセンター等)や市民活動団体・地縁組織の活動現場へアウトリーチする出前講座を計 11 回実施した。

日時	令和 7 年 5 月 31 日(土) 14:30~15:30
会場	ミナセン酒場
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	ミナセン酒場
対象	南仙台エリアで子ども食堂を運営している団体のメンバー
参加者	3 名
内容	資金調達講座として、寄付や会費を集める等、資金調達のことを学べる講座を実施した。

日時	令和 7 年 7 月 8 日(火) 14:00~16:00 8 月 18 日(月) 14:00~16:00 9 月 11 日(木) 14:00~16:00
会場	柳生市民センター／柳生北集会所／柳生集会所
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	中田西部地区社会福祉協議会
対象	中田西部地区社会福祉協議会 社協だより編集メンバー
参加者	6 名
内容	西中田社協だよりの編集会議に伴走して、情報発信について考えられるワークショップを全 3 回実施した。

日時	令和 7 年 9 月 12 日(金) 14:00~16:00
会場	仙台市生涯学習支援センター
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	仙台市生涯学習支援センター
対象	市民センター等の社会教育施設職員
参加者	14 名
内容	仙台市「令和 7 年度 学びを支える人材育成推進事業「生涯学習応用研修～広報企画研修～」として、伝わる広報を実践するための広報戦略を学べる講座を実施した。

日時	令和 7 年 10 月 24 日(金) 15:00~17:00
会場	EARTHBLUE 仙台勾当台ビル
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会
対象	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会 広報担当者
参加者	21 名
内容	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会の広報担当者向け研修として、伝わる広報を実践するための広報戦略を学べる講座を実施した。
日時	令和 7 年 11 月 19 日(水) 10:00~11:30
会場	仙台こども財団事務所
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	公益財団法人仙台こども財団
対象	子どもに関わる活動をしている団体のメンバー、公益財団法人仙台こども財団の職員
参加者	12 名
内容	「第 5 回こども財団サロン」にて、広報計画の大切さや、分かりやすいチラシづくりのポイント等を学べる講座を実施した。
日時	令和 7 年 12 月 12 日(金) 13:30~16:30
会場	仙台市役所上杉分庁舎
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	仙台市建設局百年の杜推進課
対象	仙台市百年の杜推進課の「緑の活動団体」に認定された団体
参加者	15 名
内容	「緑の活動団体交流会」にて、寄付や会費を集める等、資金調達のことを学べる講座を実施した。
日時	令和 7 年 12 月 15 日(月)13:30~16:30
会場	泉区役所
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	泉区まちづくり推進課
対象	泉区でまちづくりに取り組む活動者
参加者	11 名
内容	「泉区まちづくり活動助成事業 事前ガイダンス」として、「伝わる申請書類の書き方」についての講座を実施した。

日時	令和 8 年 1 月 18 日(日)13:30~16:30
会場	仙台市民活動サポートセンター 4 階 研修室4
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	Sendai Highschool Association
対象	Sendai Highschool Association のメンバー
参加者	3 名
内容	助成金の基礎と申請のポイントを学べる講座を実施した。

日時	令和 8 年 1 月 19 日(月)18:30~16:30
会場	若林区役所
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	若林区まちづくり推進課
対象	若林区でまちづくりに取り組む活動者
参加者	6 名
内容	「若林区まちづくり活動助成事業 事前ガイダンス」として、「伝わる申請書類の書き方」についての講座を実施した。

日時	令和 8 年 1 月 31 日(土) 11:00~12:00
会場	奥州秋保温泉蘭亭
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	川平地区社会福祉協議会
対象	川平地区社会福祉協議会 役員
参加者	22 名
内容	川平地区社会福祉協議会役員研修会にて、広報戦略について考える講座を実施した。

日時	令和 8 年 2 月 26 日(木) 14:00~16:00
会場	仙台市民図書館
講師	サポートセンタースタッフ
講座依頼者	仙台市民図書館
対象	仙台市図書館職員
参加者	11 名
内容	仙台市図書館職員研修会にて、広報について考える講座を実施した。

	3. 専門家・実践者による個別支援のアウトリーチ	
	・専門家等による個別の相談支援を市内各地の地域機関や市民活動団体等の活動現場で実施するもので、計1回のアウトリーチを実施した。	
	日時	令和7年7月3日(木) 9:30~12:00
	会場	仙台市内のある地域
	講師	まちづくりの専門家
	相談者	同地区でまちづくりに携わっている団体のメンバー2名
	内容	まちづくりの専門家の同席の元、地域課題を整理した。
添付	<input checked="" type="checkbox"/> 広報物 <input type="checkbox"/> 配布資料 <input checked="" type="checkbox"/> アンケート結果 <input type="checkbox"/> その他()	

個別事業報告書

【事業 3b】協働に関する理解促進及び機会創出事業	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なまちづくりの主体が協働への理解を深める機会をつくる。 ・市民活動団体や事業者、教育機関等多様な主体が意見を交わし、交流することで相互理解を深める機会をつくる。
成果目標	地域や社会の課題解決に多様な主体が様々な形で関わっている状況をつくる。
実施目標	<p>協働の理解促進や機会創出に資する事業を、毎年度2事業以上実施。</p> <p>事業者が他の主体と意見交換できる事業を毎年度実施。</p> <p>多様な主体による学びあいの場を通じた連携・交流支援の年間の延べ参加者数100人以上。</p>
成果	<p>1.協働出前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングや相談対応、アウトリーチを行った中で、協働における相互理解の重要性を伝える内容について、講座形式での機会は求められていない。 <p>2.協働のタネのプロジェクト化支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチを通じて、その際に市民活動団体との意見交換したことをまとめると、多くの団体が協働という手段を選択肢として認識していないことがわかった。 ・協働の必要性を感じている団体は、すでに行政や他団体と協働で事業を実施している。他方、協働への認識が薄い団体は、協働を検討する以前に、人材や資金といった組織基盤の困りごとを解決しなければならない状態にあることが多く、直接的な協働に関するニーズを持っていない。この2つの傾向に多くの団体が分類される。 ・サポートセンターが協働を行う各種団体同士の事前のネットワーク形成に直接関わらなくても、相談・伴走支援を通じて対応できることが分かった。 <p>3.共創プラットフォームの地域展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で核となる団体・人物と出会うための地域訪問を38回実施し、その中で取材やヒアリング、困りごとへの助言・相談を行った。 ・1つの地域で、コーディネーター人材育成のための専門家に同行を依頼し、面談・助言を行った。

4.多様な主体による学びあいの場を通じた連携・交流支援

- ・多様な主体による学びあいの場を通じた連携・交流支援を 5 回実施した。
- ・延べ 140 名が参加し、課題解決に取り組む主体が出会い、つながる機会になった。
- ・「部活動の地域移行」「デフリンピック」「地域と編集」「げいのう」「若者」等、様々なトピックで、多様な主体による学びあいの場をつくり、ゲストと参加者、参加者同士でつながり、連携・協働できることについて考えるきっかけをつくった。

①「こどもの成長を地域で支える」～部活動の地域移行にどう関われるだろう？～

- ・「部活動の地域移行」についての相談対応から、日頃から「まちの問題」をテーマに場をひらく、せんだい・みやぎソーシャルハブと連携して意見交換会を開催した。
- ・参加者は、地域のスポーツ団体関係者、部活動の地域移行に関わる行政関係者、教育関係者等、テーマに関心を持つ 22 名で、新たに出会うきっかけをつくった。
- ・ゲストがそれぞれ、サッカークラブ、麻雀クラブを運営し子どもたちに部活動の場を開いている団体関係者だったことで、スポーツと文化の両部活動関係者がつながる場にもなった。
- ・アンケートでは「部活動の地域移行について実態が知れてよかった」「部活動の地域移行に関わる様々な人とつながることができた」といった感想が寄せられた。

②デフリンピック応援企画

～デフリンピックを応援しよう！デフリンピックから繋がろう！～

- ・「デフスポーツを学ぶ機会をつくりたい」という相談対応から、学びあいと交流の場をつくり、デフスポーツ団体、聴覚障害者協会をゲストに迎えた学びあいと交流の場を開いた。
- ・参加者は、スポーツボランティア団体関係者、行政関係者、企業関係者、聴覚障害当事者等の 39 名で、ゲストと共にデフスポーツへの理解促進の機会をつくった。
- ・満足度は 5 段階評価で 4.6 点だった。
- ・合理的配慮として、要約筆記者、手話通訳者を配置することで、聴覚障害者 2 名とその家族の参加があり、障害の有無に関わらず、一緒に学ぶ場になった。
- ・アンケートでは「デフサッカーや卓球の取り組みについて、詳しく知ることができてよかった。情報保障もされていてよかった」「育成や遠征費の工面といった困りごとを理解できたので、今後応援していきたいと思った」といった感想が寄せられた。

③藤本智士さんと、地域と「編集のチカラ」についてしゃべろう

- ・参加者は、商店街関係者、町内会関係者、編集や印刷事業者、市民活動団体関係者等、まちづくりの多様な主体 23 名が集まった。
- ・参加者が自己紹介をし合う時間を設けたり、自身の活動を PR する媒体を持ち寄る仕掛けをしたり、参加者同士の交流のきっかけをつくることができた。
- ・日頃サポートセンターの貸室を使用している方々も多く参加しており、貸室利用だけでは交わることがなかった活動者同士が、互いに共通のテーマに関心があることを知り、会場で情報交換する様子があった。
- ・アンケート回答者 15 名のうち 14 名が「他の団体と活動を知ることができた」「交流できた」と回答した。
- ・交流会をきっかけに、交流会の 2 日後に開催されたゲストの ZINE 即売イベントに足を運ぶ人もいた。参加者同士が再会し、サポートセンター外での関わりが生まれている。

④仙台げいのう未来ミーティング キックオフ

- ・参加者は、郷土芸能や民俗芸能関係者、関心がある市民等、33 名(登壇者含めると 57 名)が集まった。
- ・これまで仙台ではなかった、郷土芸能や民俗芸能を担う若手が登壇して話したり、担い手同士や市民と交流したりする場をつくれた。
- ・参加者は、郷土芸能や民俗芸能関係者が多かったが、生涯教育関連や地域おこし協力隊員等の参加もあり、新たな関わりが期待される。
- ・共催団体である仙台げいのう学校にはゲストとの調整役、せんだい 3.11 メモリアル交流館には関連企画の展示、仙台市文化財課にはゲスト選定に関する相談等、協力を得て開催することができた。

⑤仙台学生ラボ×サポセンユースフェスタ

- ・参加者は、市民活動をしている若者、市民活動に興味のある若者等、23 名が集まった。
- ・満足度は5段階評価で 4.5 点、イベントを通じて新しいつながりがつくれたかについては5段階評価で 4.6 点だった。
- ・学生団体「仙台学生ラボ」との共催によって、同世代からの口コミでの参加者を集めることができた他、当日の交流でも安心して話せる場づくりができた。
- ・コロナ禍での学校生活の経験等、若者でしか共有できない話題で盛り上がりをつくることができた。

課題	<p>1.協働出前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働についての出前講座を行っていることを広く周知するだけでは、出前講座の実施に至らなかった。今後は予め協働についての情報を必要とする市民活動団体等を絞った上で、市民協働事業提案制度の応募期間に、行政との協働を不安に感じる応募団体に対して、協働についての出前講座をできる旨を周知する。 <p>2.協働のタネのプロジェクト化支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト化のきっかけとなる、連携・協働・ネットワーク形成は把握することができたが、連携・協働・ネットワーク形成が困難であるという相談等の機会を得ることができなかった。 ・協働のタネをプロジェクト化するための伴走の中で、「こういう取り組みをしている人の話を聞いてみたい」と相談があった場合でも、相談事業における専門家・実践者との連携で十分対応できるため、相談対応の中で支援を行う。 <p>3.共創プラットフォームの地域展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度当初に計画していたように、地域で核となる団体・人物の発掘や、必要に応じた地域の人材に対してコーディネーター人材育成としての専門家の同行ができなかった。そのため、要件等を整理し、地域の中でのネットワークを可視化する際は、サポートセンターがつなぐ形のみを共創プラットフォームの地域展開とするのではなく、地域のイベントに向けた会議や準備の時間にもアウトリーチして情報を収集する。 <p>4.多様な主体による学びあいの場を通じた連携・交流支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企画で、連携・協働できることを考える学びあいの場を提供したが、機会として回数が少なく、多様な主体が様々な形で関わる状況を継続したものにするには至らなかった。 <p>①「こどもの成長を地域で支える」～部活動の地域移行にどう関わられるだろう？～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定は良かったが、参加者の熱量を受け止めるための時間が足りなかった。 ・フォローアップ企画や勉強会等定期的に開催していく必要がある。 <p>②デフリンピック応援企画 ～デフリンピックを応援しよう！デフリンピックから繋がろう！～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デフリンピック開催報告会として、フォローアップ企画の構想があったが、実現しなかった。 ・アンケートをもとにフォローアップしていく必要がある。
----	---

	<p>③藤本智士さんと、地域と「編集のチカラ」についてしゃべろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、ゲストの話と質疑に留まらず、参加者同士、ゲストとのコミュニケーションをより求める声があり、お互いの活動を知る仕掛けが少なかった。 <p>④仙台げいのう未来ミーティング キックオフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に今回のような場を設けて、関係者同士や、関係者と市民のつながりを構築する必要がある。 ・踊り手や囃子方といった直接の担い手ではない、多様な関わり方を示し、発信することで、市民の関わりをひろげていく必要がある。 ・テーマに、興味関心のある市民にどのように情報を届けたらよいかや、興味関心をもつ市民をどのように増やすのかについて、継続的に検討していく。 <p>⑤仙台学生ラボ×サポセンユースフェスタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の交流会を通じてできたつながりが、一過性のつながりにならないように、フォローアップを行っていく。 ・「市民活動に参加している若者」が参加者の多くを占めたため、関心層の若者や社会的起業に関心がある若者等も参加できるような場を検討する。
実施概要	<p>1.協働出前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度事業実施なし <p>2.協働のタネのプロジェクト化支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度事業実施なし <p>3.共創プラットフォームの地域展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度、地域で核となる団体・人物と出会うための地域訪問を 38 回行った。

4.多様な主体による学びあいの場を通じた連携・交流支援

①「こどもの成長を地域で支える」～部活動の地域移行にどう関わられるだろう?～

日時	令和7年9月18日(木)19:00～20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
ゲスト	・divertido FC TOMIYA 橋本勇人さん ・一般社団法人アーツグラウンド東北 代表理事 千田優太さん
対象	・部活動の地域移行に関心のある人 ・部活動やクラブチーム等運営している人 ・こどもの学びや成長に役立ちたいとお考えの人等
共催	せんだい・みやぎソーシャルハブ
参加者	22名(定員20名)
内容	地域や市民がどうやって子どもの学びや部活動を支えていくか、参加者と一緒に考える。

②デフリンピック応援企画

～デフリンピックを応援しよう!デフリンピックから繋がろう!～

日時	令和7年10月3日(金)18:00～20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
ゲスト	・(一社)宮城県聴覚障害者協会 副会長 菅原伸哉さん 事務局 首藤奈津子さん ・RISE 仙台 Diversity of table tennis 代表・監督 熊谷瑞枝さん ・(一社)日本ろう者サッカー協会 事務局長 松原利江子さん
対象	・デフリンピックに関心がある人 ・スポーツが好きな人 ・多様な文化や個性を認め合う交流がしたい人等
参加者	39名(定員40名)
内容	ゲストのお話からデフリンピックを知る。

③藤本智士さんと、地域と「編集のチカラ」についてしゃべろう

日時	令和 7 年 12 月 19 日(金)18:30~20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 地下 1 階 市民活動シアター
ゲスト	有限会社 Re:S 代表 藤本智士さん
対象	・自分たちのまちを自分たちでもっと良くしたい、変化させていきたいと考えている人 ・伝えること、編集することに関心のある人 ・「地域編集?」と、なんだか気になってしまった人等
参加者	23 名(定員40名)
内容	地域の課題解決に「編集のチカラ」を活かしてきた藤本さんから話題提供と、参加者のみなさんを交えての交流。

④仙台げいのう未来ミーティング キックオフ

日時	令和 8 年 2 月 21 日(土)13:00~16:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 地下 1 階 市民活動シアター
ゲスト	ファシリテーター： 小岩秀太郎さん(仙台げいのうの学校校長、縦糸横糸合同会社) 話題提供(登壇者)： 秋保神社神楽 丹野梓さん・槻田薫さん 愛子の田植踊 佐藤楓夏さん 生出森八幡神楽 佐藤充基さん、加藤和佳香さん 大崎八幡宮の能神楽 小野目翠さん、佐藤樹さん、岡村叶馳さん、渡辺総さん 七郷神社丹波神楽 半澤真澄さん 福岡の鹿踊・剣舞 阿部心琴さん 南三陸高等学校「学びのししおどり Lab」 デモンストレーション団体： 荒浜磯獅子踊りを再生する会
対象	・“げいのう(郷土芸能や民俗芸能)”や地域固有の文化、地域文化による活性化等に興味関心のある人等
共催	仙台げいのう学校
参加者	33 名(定員 50名)
内容	・次世代系” げいのう人” ディスカッション ・” げいのう” デモンストレーション ・交流会

⑤仙台学生ラボ×サポセンユースフェスタ	
日時	令和 8 年 2 月 26 日(木)18:00~20:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6 階 セミナーホール
共催団体	仙台学生ラボ
対象	・10 代、20 代の市民活動者、及び市民活動に興味ある人
共催	仙台学生ラボ
参加者	23 名(定員 30名)
内容	「一緒になにかやってみる？」をテーマにして、若者の活動者・ 関心者が交流する場を創る。 各グループに自己紹介し、その後「お互いの活動で重なって できそうなことは何か」検討を通じ交流を深める。
添付	<input checked="" type="checkbox"/> 広報物 <input type="checkbox"/> 配布資料 <input type="checkbox"/> アンケート結果 <input type="checkbox"/> その他()

個別事業報告書

【事業 3c】調査研究事業							
事業目的	仙台市内各所で、一人一人の想いから始まる小さな活動が生まれ、多様な主体による協働が起こる環境を整える。						
成果目標	市内各所で、市民目線で発掘された社会課題について、多様な主体の力を合わせた解決の取り組みが行われ、仙台市における協働のまちづくりが促進される。						
実施目標	令和 7 年度は、その準備期間として市内の協働まちづくりの実態調査と、地域訪問を行う。						
成果	<p>1.アウトリーチ支援のあり方</p> <p>(1)「仙台市協働ナビ」できるよ！仙台」の「市民協働事業」の仕分け</p> <p>協働の実態を把握するために、仙台市の「仙台市協働ナビ」できるよ！仙台」のサイト内の「市民協働事業検索」機能から、同じく仙台市の「協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況等」のサイト内に掲載されている「協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況報告書(令和 6 年度実績)」を元に「市民協働事業」を次の 3 つの視点から仕分けを行った。「共通の目的意識を持っているか」、「事業実施における対等性があるか」、「相互理解・役割分担ができていないか」という 3 つの視点に沿った市民協働事業(本報告書では「狭義の協働事業」と称する)は、全 313 事業中、165 事業となった。この仕分けを通じて、仙台市の「仙台市協働ナビ」できるよ！仙台」には、平成 16 年度に作成された『仙台協働本』における「主な協働手法」(委託、実行委員会・協議会、共催、情報交換・情報提供、助成、後援)に則った市民協働事業(本報告書では「広義の協働事業」と称する)を掲載していることが分かった。</p> <table border="1" data-bbox="416 1285 1219 1426"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業数(単位:事業)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全事業数(広義の協働事業)</td> <td>313</td> </tr> <tr> <td>狭義の協働事業</td> <td>165</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)調査研究事業の方向性の検討</p> <p>上記仕分けを元に、具体的な調査手法を検討するにあたり、学術的視点及び実践的視点から意見をもらうこととした。東北大学大学院文学研究科の青木聡子准教授、NPO 法人都市デザインワークスの田川浩司事務局次長に相談した。相談を踏まえ、本調査研究事業では当初想定していた量的調査の手法を見直し、質的調査の手法を採用することとした。令和 7 年度は、協働実践者にオープンエンド方式の非構造化インタビューを行いながら、今後の調査項目を含めた内容の再構築や分析がしやすくなるよう作業を行うこととした。</p>		事業数(単位:事業)	全事業数(広義の協働事業)	313	狭義の協働事業	165
	事業数(単位:事業)						
全事業数(広義の協働事業)	313						
狭義の協働事業	165						

	<p>(3)協働実践者へのヒアリング調査</p> <p>令和 7 年度のヒアリング対象者は、活動分野や行政との協働に前向きか否かを問わずに、これまでにサポートセンターと関わりのある団体から 5 名の協働実践者を選定した。5 名へのヒアリングを通したコード化により、共通する視点として、以下の 3 点があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1:課題解決への強い意識。 2:主体性への言及。 3:恒常的に他団体や地域から課題についての情報を収集し、そこから協働へと派生している。 <p>※詳細は令和 7 年度調査研究事業報告書に別記する。</p>
課題	<p>令和 7 年度にヒアリングを行った協働実践者は市民活動団体に限定していたため、市民活動団体以外の協働に対する考えを把握することはできなかった。そのため、より多様な視点で協働の実態を把握する上では、行政や地縁組織の実践者にもヒアリングを行う必要がある。</p> <p>また、令和 7 年度は、ヒアリング調査を行いつつ、調査結果を令和 8 年度以降の調査計画に反映する検討を合わせて行っていたため、本調査研究事業の成果が果たす役割について十分な検討を行うことができなかった。テーマにある「アウトリーチ支援のあり方」の現状の検証等含め、検討を行っていく必要がある。</p>
実施概要	<p>1.アウトリーチ支援のあり方</p> <p>(1)「仙台市協働ナビ」できるよ！仙台」の「市民協働事業」の仕分け</p> <p>11 月 24 日(月)に、「仙台市協働ナビ」できるよ！仙台」のサイト内の「市民協働事業検索」機能から、同じく仙台市の「協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況等」に掲載されている「協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況報告書(令和 6 年度実績)」の仕分けを行った。広義の協働事業 313 事業から、狭義の協働事業として 165 事業を仕分けした。</p>

(2)調査研究事業の方向性の検討

本調査研究事業の方向性について、学術的視点及び実践的視点から意見をもらうため、次の2名に相談を行った。

訪問日	相談先	相談内容
12月10日 (水)	東北大学大学院 文学研究科 准教授 青木 聡子 さん	・調査内容と手法の整合性 ・調査計画の立て方 ・インタビューで何を聞き取るか 等
12月25日 (木)	NPO 法人 都市デザインワークス 事務局次長 田川 浩司 さん	・調査内容の整理・発信 ・調査後の対応 等

①東北大学大学院文学研究科 青木 聡子 准教授への相談

当初、仕分けをした狭義の協働事業に対して量的調査としてアンケート調査を行うことについて相談予定であったが、アンケート調査という手法が本調査研究事業に適しているかについても相談することになった。相談の結果、協働という調査内容の多様性から量的調査ではなく質的調査が適していることがわかった。

具体的には、質的調査の中でも、市民活動団体との信頼関係というサポートセンターの強みを活かせる方法として、オープンエンド方式の非構造化インタビューが適しているということがわかり、令和7年度の調査に取り入れることとした。

②NPO 法人都市デザインワークス 田川 浩司 事務局次長への相談

調査計画全般についての相談をした。調査結果の公開方法、活用方法を意識しながら調査計画を作成すること等の助言を受けた。助言を踏まえ、令和7年度のヒアリング調査を令和8年度以降の調査計画に反映することとした。

(3)実践者へのヒアリング調査

令和7年度のヒアリング調査は令和8年度以降の調査計画に反映することを前提にしていたため、ヒアリング対象は分野、年齢層等が偏らないよう意識して選定し、5名の協働実践者にヒアリング対象者を依頼した。ヒアリング調査ではオープンエンド方式の非構造化インタビューを採用した。

ヒアリング実施日	ヒアリング対象者(※氏名等の非公開とする)
12月25日(木)	Aさん(分野:まちづくり)
1月15日(木)	Bさん(分野:まちづくり)
1月16日(金)	Cさん(分野:スポーツ)
2月16日(月)	Dさん(分野:ジェンダー)
3月14日(土)	Eさん(分野:環境)

	<p>①ヒアリング調査について</p> <p>ヒアリング調査の中では以下のような点を質問しつつ、ヒアリング調査の中で重要と感じた点について深掘りをするために追加質問もした。相談者の助言もあり、協働実践者が重視している視点を引き出すために、なるべく自由に話してもらうことを心がけた。なお、ヒアリング内容は全て録音した。</p> <p><主なヒアリング項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の活動内容について ・活動において大切にしている価値観 ・他団体との連携をどのように行っているか ・団体内部の人材育成について ・今後の社会・仙台への見通し、これから団体として取り組みたいと考えていること <p>②コード化の手法について</p> <p>録音されたヒアリング内容を元に、コード化を行った。コード化とは、元のデータの各部分にキーワード的な言葉(コード)をつけていく作業のことである。具体的な作業手順としては、ヒアリング内容をすべて文字起こし、事業担当者 2 名で冒頭から読み合わせ、ヒアリング対象者が話す内容をポイントごとに端的にまとめ、内容ごとに異なる色の線を引いていき、ヒアリング調査の中で重複している箇所(重視している視点)を見つけていった。その後、コード化された内容を図にまとめ、まとめた内容同士の関係を整理していった。</p> <p>※詳細は令和 7 年度調査研究事業報告書に別記する。</p>
<p>添付</p>	<p><input type="checkbox"/>広報物 <input type="checkbox"/>配布資料 <input type="checkbox"/>アンケート結果 <input type="checkbox"/>その他()</p>